

スケッチ名: D-1トレンチ 原電道路ピット東向き法面 1/20 ③ スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

②F<sub>1</sub>: 細礫・シルト混じり砂  
 基質はシルト質細砂からなる  
 礫 (5.5Y 4/6) 5.5YR 4/6

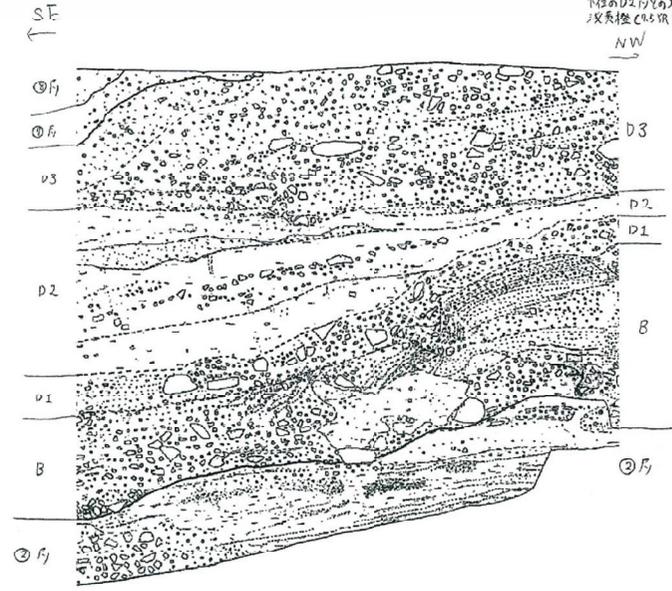
①F<sub>1</sub>: 礫混じり砂質シルト  
 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫  
 径20mm程度の礫を含む  
 基質はシルト混じり細～中粒砂からなる  
 下部のD3層との境界は、②F<sub>1</sub>層の入り込みに連続関係と見られる。  
 明礫 (5.5Y 4/6), 明格 (5.0YR 4/6)

D3: 礫礫  
 礫率 15~40%, 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫  
 径10~30mmの礫主体、最大250mmの礫を含む  
 基質はシルト混じり砂からなる  
 一部に酸化汚染が見られる  
 一部に堆積構造が見られる  
 下部のD2層との境界は、D3層の入り込みに連続関係と見られる。  
 明礫 (5.5Y 4/6), 明格 (5.0YR 4/6), 明礫 (1.0YR 4/6)

D2: 礫混じり砂質シルト  
 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫  
 径10~100mmの礫を含む  
 基質はシルト質細砂からなる  
 シルト質砂をシルト状に結ぶ  
 一部に酸化汚染が見られる  
 一部に堆積構造が見られる  
 明礫 (5.5Y 4/6), 明格 (9.5YR 4/6)

D1: 礫礫  
 礫率 15~30%, 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫  
 径10~30mmの礫主体、最大150mmの礫を含む  
 基質はシルト混じり砂からなる  
 一部に酸化汚染が見られる  
 一部に堆積構造が見られる  
 明礫 (5.5Y 4/6), 明格 (9.5YR 4/6)

B: 砂礫  
 礫率 20%, 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫  
 径1~70mmの礫主体  
 基質はシルト混じり細砂からなる  
 砂質シルト、細～中粒砂と砂礫が互層状を呈する  
 一部に酸化汚染が見られる  
 一部に堆積構造が見られる  
 下部の②F<sub>1</sub>層との境界は、②F<sub>1</sub>層の入り込みに連続関係と見られる。  
 明礫 (2.5Y 4/6)



②F<sub>1</sub>: 細礫・砂混じりシルト  
 花崗岩、花崗斑岩の角～亜円礫  
 径5~10mm程度の礫を含む  
 基質はシルト混じり細砂～砂質シルトからなる  
 砂礫、砂質シルトをシルト状に結ぶ  
 堆積構造が見られる  
 一部に酸化汚染が見られる  
 灰白 (2.5Y 4/6)

法面勾角27.5° 作成日・確認日: 2022年3月28日  
 確認者: [Redacted]

0 1m  
 原電道路ピット東向き法面 ② 1/20

スケッチ



スケッチ名D-1トレンチ 原電道路ピット東向き法面 1/20 ④ スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
・観察面の対象箇所名  
・観察面の枠  
・縮尺  
・方位、スケール(または、グリッドの間隔)



スケッチ

①F: 花崗岩(り)砂質シルトへ砂岩  
礫率10~40%。花崗岩、花崗斑岩の互角~亜円礫  
径30mm以下の礫が主體  
基質はシルト泥(り)細~中粒砂からなる。  
一部に堆積構造が見られる。  
下部のD3Fとの境界は②Fが削り込んで崩壊しているため  
不整合関係であると考へられる。  
明礫(5YR 5/6)、橙(7.5YR 7/6)

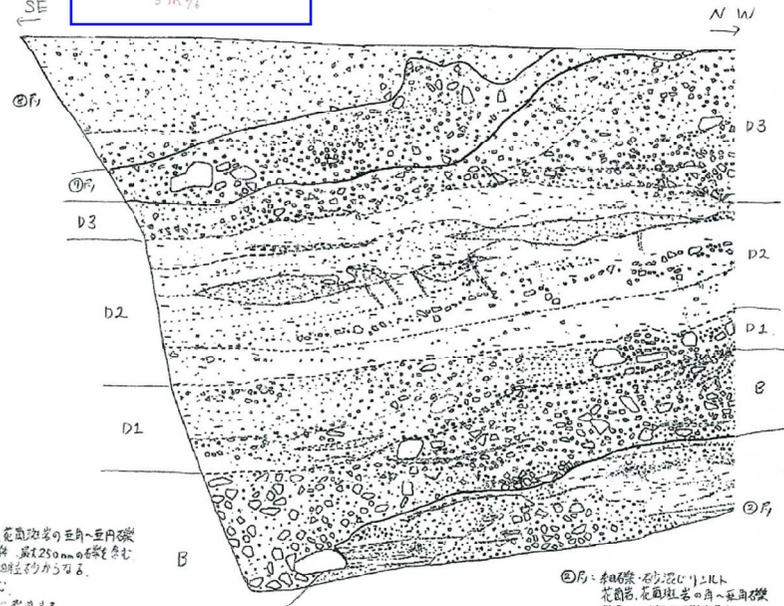
D3: 砂岩  
花崗岩、花崗斑岩の角~亜角礫  
径10~30mmの礫を主體。最大20mmの礫を含む。  
基質はシルト泥(り)砂からなる。  
一部に酸化汚染が見られる。  
淡黄緑(7.5YR 6/6)、黄(8.5YR 6/6)、明礫(4.5YR 6/6)

D2: 花崗岩(り)砂質シルト  
花崗岩、花崗斑岩の角~亜円礫  
径10~100mmの礫を含む。  
基質はシルト~中粒砂からなる。  
シルト質砂を主體に含む。  
一部に堆積の構造が見られる。  
一部に酸化汚染が見られる。  
明礫(5YR 6/6)、明礫(8.5YR 5/6)

D1: 砂岩  
礫率15~30%。花崗岩、花崗斑岩の角~亜円礫  
径10~30mmの礫を主體。最大150mmの礫を含む。  
基質はシルト泥(り)砂からなる。  
一部に酸化汚染が見られる。  
砂質シルトを主體に含む。  
一部に堆積構造が見られる。  
下部のB層とは、D2Fが削り込んで崩壊しているため  
不整合関係であると考へられる。  
明礫(7.5YR 6/6)、明礫(7.5YR 5/6)

B: 砂岩  
礫率2%。花崗岩、花崗斑岩の角~亜円礫  
径10~70mmの礫を主體。最大250mmの礫を含む。  
基質はシルト泥(り)砂からなる。  
細~中粒砂を主體に含む。  
一部に堆積構造が見られる。  
一部に酸化汚染が見られる。  
淡黄(2.5Y 7/6)

②F: 粗礫・シルト泥(り)砂  
花崗岩、花崗斑岩の角~角礫  
径20mm以下の礫を含む。  
基質はシルト質細砂からなる。  
橙(5Y 7/6)



②F: 粗礫・砂質シルト  
花崗岩、花崗斑岩の角~亜角礫  
径50mm以下の礫を含む。  
基質はシルト泥(り)細粒砂~砂質シルトからなる。  
砂質シルトを主體に含む。  
一部に堆積構造が見られる。  
一部に酸化汚染が見られる。  
灰白(2.5Y 9/1)

原電道路ピット東向き法面 ④ 1/20  
走向方位 75~80°

作成日・確認日: 2022年3月28日  
確認者: [Redacted]



スケッチ名: D-1トレンチ ふげん道路ピット 東法面 1/20 ③ スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
・観察面の対象箇所名  
・観察面の枠  
・縮尺  
・方位、スケール(または、グリッドの間隔)



スケッチ

⑧層

- ・紫田礫・シルト混り砂
- ・木登(5Y6/6) 5YR6/6
- ・花崗岩, 花崗斑岩の亜角礫, 径10mm以下の石礫を含む。
- ・基質はシルト質系田砂になる。

⑦層

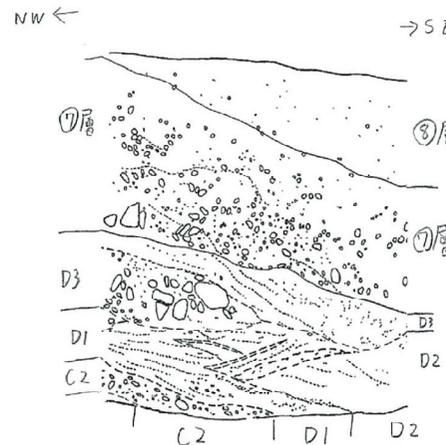
- ・石礫混り砂質シルト～砂礫
- ・明赤系、木登(5YR 5/6, 7.5YR 6/6)
- ・花崗岩, 花崗斑岩の亜角～亜円石礫, 径20mm以下の石礫主体。
- ・基質はシルト混り系田中粒砂になる。
- ・下位のD3層との境界は、D3層中の堆積構造と連続していることから不整合関係であると考えられる。
- ・礫率17～15%
- ・下部ほど石礫の含有率が多い。

D3

- ・砂礫～シルト混り系田砂
- ・浅黄赤、木登、明赤(7.5YR 8/4, 7.5YR 6/6, 10YR 6/6)
- ・花崗岩, 花崗斑岩の角～亜角礫, 径10～300mmの石礫主体。
- ・礫率15～30%
- ・基質はシルト混り砂になる。
- ・一部に酸化汚染が見える。
- ・堆積構造が見える。
- ・下位のD1層, D2層との境界は、D3層が削り込んで連続していることから、不整合関係であると認められる。

D2

- ・シルト質砂
- ・浅黄赤、明赤(5YR 6/4, 7.5YR 5/6)
- ・中粒砂になる。
- ・堆積構造が見える。



D1

- ・砂礫
- ・木登、明赤(7.5YR 6/6, 7.5YR 5/6)
- ・礫率15～30%
- ・花崗岩, 花崗斑岩の角～亜円石礫, 径10～300mmの石礫主体
- ・基質は砂になる。
- ・堆積構造が見える。

C2

- ・砂礫
- ・木登、明赤(7.5YR 6/6, 7.5YR 5/6)
- ・礫率15～20%
- ・花崗岩, 花崗斑岩の角～亜円石礫, 径10～100mmの石礫主体。
- ・基質はシルト混り細粒砂になる。
- ・一部に酸化汚染が見える。
- ・弱く堆積構造が見える。

法面口角80°



作成日・確認日: 2022年3月28日  
確認者: [Redacted]

D-1トレンチ ふげん道路ピット 東法面 ③ 1/20

青枠：⑧層の色調に関する部分

2022  
作成日 3/28

作成者

確認者

2022.3.28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原因(第四系)										スケッチ原因(基盤後)				記事・スケッチを削除・変更・追記した理由
			地質名	地質的特徴	地層構造	地層構造の整合・不整合関係の認定できる者	地層構造の整合・不整合関係の認定できない者										
	砂礫 礫高15~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫 径10~100mmの礫主体。 基質はシルト混じり細粒砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 粘り構造が認められる。 層(7.5YR6/6) 明礫(7.5YR5/6)	-															
	砂礫 礫高15~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫 径10~100mmの礫主体。 基質はシルト混じり細粒砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 粘り構造が認められる。 層(7.5YR6/6) 明礫(7.5YR5/6)	-															
	シルト質砂 中粒砂が中心を占める。 粘り構造が認められる。 たぬい層(5YR6/4) 明礫(7.5YR5/6)	-															
	砂礫~シルト混じり細粒砂 礫高10~20% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫 径10~100mmの礫主体。 基質はシルト混じり砂からなる。 一部に酸化汚染がみられる。 粘り構造が認められる。 下位のD1層、D2層との境界は、D3層が有り込んで埋積していることから不整合関係であると考えられる。 実質層(7.5YR6/4) 層(7.5YR6/6) 明礫層(10YR6/4)	-															
	細粒シルト質シルト~砂礫 礫高7~15% 花崗岩、花崗斑岩の角~歪円礫 径20mm以下の礫主体。 基質はシルト混じり細~中粒砂からなる。 層下部のD2層との境界は、D3層中の地層構造と斜交していることから不整合関係であると考えられる。 下部は粘り構造の含有率が多い。 明赤層(5YR6/6) 層(7.5YR7/6)	-															
	細粒シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 層(5YR6/6)	細粒シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 層(5YR6/6)															色調(層)と、色調を示す記号(5YR6/6)が一致していない。表面汚染を考慮し、色調(層)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。

No.	礫砂層に関する記事	適正化すべき記事内容	礫砂層										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由			
			礫砂層区分(Hc/Hd/Hg)	礫砂層の性状	礫砂層の構成	内訳構造	断面区分	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層	礫砂層				
	-	-														

スケッチ名: D-1トレンチ 原電道路ピット島状頂盤部④ 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

○

スケッチ



- ⑦層
- ・石礫混じり砂質シルト～石礫
  - ・明赤不局、橙(5YR5/6、7.5YR7/6)
  - ・花崗岩、花崗斑岩の亜角～亜円石礫、径30～400mmの石礫主体。最大径500mmの石礫を含む。
  - ・石礫率20%
  - ・基質はシルト混じり系土～中粒立石砂となる。

- ⑧層
- ・石礫、シルト混じり砂
  - ・木登(5Y6/6) 5YR6/6
  - ・花崗岩、花崗斑岩の亜角石礫、径20～400mm程度の石礫主体。最大600mmの石礫を含む。石礫率5～10%。
  - ・基質はシルト質系土となる。
  - ・石少石礫混じり砂質シルト、石少混じり系土、石少質シルトをレンズ状～層状に挟む。

作成日・確認日: 2022年3月28日  
 確認者: [Redacted]

D-1トレンチ原電道路ピット島状頂盤部④ 1/20



スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ 原電・ふげん道路ピット\_⑧層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
原電ケ道路ツ東向き原図③法面ス	細礫・シルト混じり砂 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5YR6/6)		
原電ケ道路ツ東向き原図④法面ス	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5YR6/6)	細礫・シルト混じり砂を主体とする。橙色(5YR6/6) 礫率5~10%で、礫は径2~4cm程度の垂角礫を含む。基質は、シルト質細砂からなり、細礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土及び砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。	・礫率は観察面が最も広い原電道路頂部スケッチ原図④の記載を全体の代表とした。 ・色調(橙)と、色調を示す記号(5Y6/6)が整合していない。観察面写真を確認し、色調(橙)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
ふげんケ道路ツピット原図③東法面	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5Y6/6)	細礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径10mm以下の礫を含む。 基質はシルト質細砂からなる。 橙(5YR6/6)		
原電ケ道路頂部スケッチ原図④	礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20~40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。 礫率5~10% 基質はシルト質細砂からなる。 砂礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土、砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。 橙(5Y6/6)	礫・シルト混じり砂 花崗岩、花崗斑岩の垂角礫、径20~40mm程度の礫主体。最大600mmの礫を含む。 礫率5~10% 基質はシルト質細砂からなる。 砂礫混じり砂質シルト、砂混じり粘土、砂質シルトをレンズ状~層状に挟む。 橙(5YR6/6)		

# 原電道路・ふげんピット写真

153のエビデンス (10/10)

東向き法面



2015年10月撮影

島状頂盤



2015年9月撮影

ふげん道路  
東法面



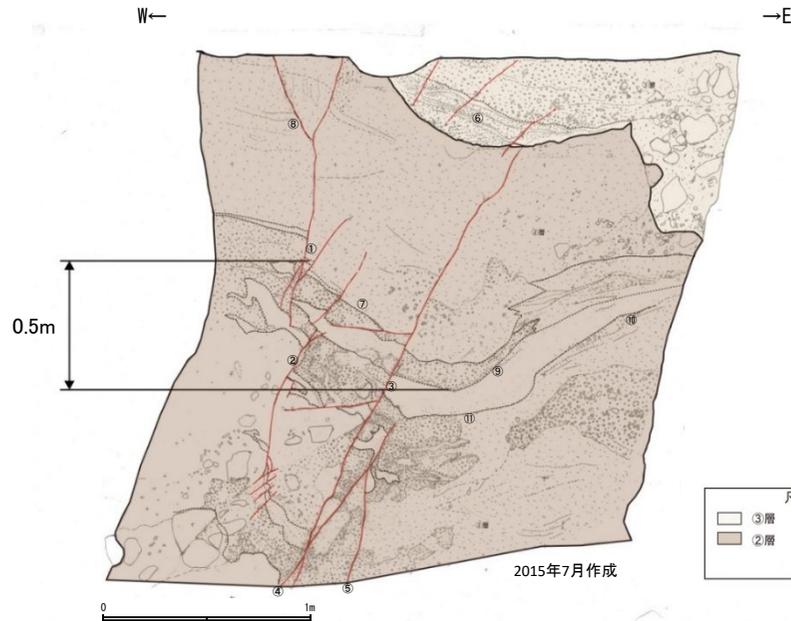
2015年10月撮影

2m

# K断層の性状(ふげん道路ピット)

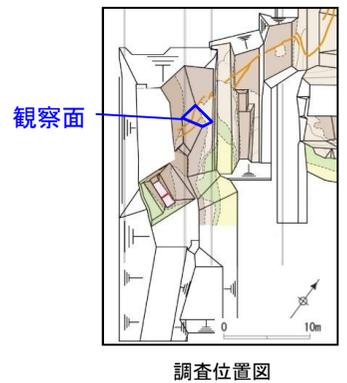
修正前

第536回審査会合  
参考資料(1/3) 修正



- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| ① f : N29° W75° W | ⑥ b : N75° W39° N  |
| ② f : N25° E76° W | ⑦ b : N30° W26° E  |
| ③ f : N14° W62° W | ⑧ b : N57° W9° W   |
| ④ f : N35° E75° W | ⑨ b : N77° E2° S   |
| ⑤ f : N1° W70° W  | ⑩ b : N47° E21° SE |
| f : せん断面          | ⑪ b : N5° W 10° W  |
| b : 層理面           |                    |

K断層は数条に分岐しており、②層内の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で約0.5mである。

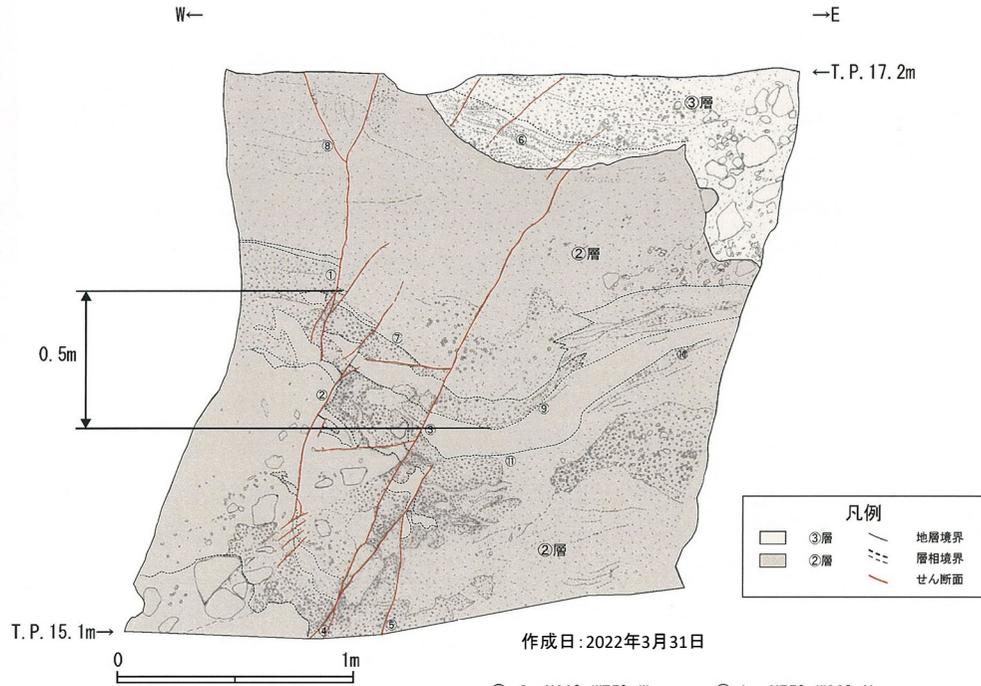


- ③層：砂礫 にぶい黄橙色～黄灰色 (10YR7/4～25Y6/11)  
礫は径20cm以下の角～垂角礫主体である。礫率30～50%  
基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。  
礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり、  
径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。
- ②層：礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色 (2.5Y7/12～2.5Y7/2)  
細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。  
砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)  
シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。

# K断層の性状(ふげん道路ピット)

154, 155 : ②層, ③層の色調修正

・K断層は数条に分岐しており, ②層内の地層を変位基準とした鉛直変位量は合計で約0.5mである。

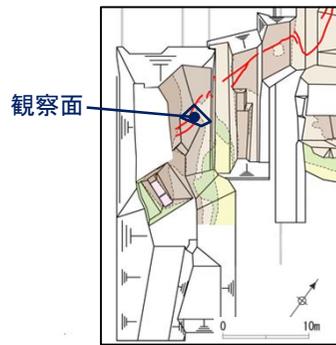


作成日: 2022年3月31日



撮影: 2015年7月

- ① f : N29° W75° W      ⑥ b : N75° W39° N
- ② f : N25° E76° W      ⑦ b : N30° W26° E
- ③ f : N14° W62° W      ⑧ b : N57° W9° W
- ④ f : N35° E75° W      ⑨ b : N77° W2° S
- ⑤ f : N1° W70° W      ⑩ b : N47° E21° SE
- f : せん断面          ⑪ b : N5° W10° W
- b : 層理面



調査位置図

- ③層: 砂礫 にぶい黄橙色~黄灰色 (10YR7/4~2.5Y6/1)  
 礫は径20cm以下の角~垂角礫主体である。礫率30~50%  
 基質は中粒砂~粗粒砂であり, 淘汰極めて悪い。  
 礫混じり砂 黄灰色~黄褐色を呈する。砂は細粒砂~粗粒砂であり,  
 径5~50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。
- ②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色~灰黄色 (2.5Y7/1~2.5Y7/2)  
 細粒砂~粗粒砂からなり, 径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。  
 砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)  
 シルトを主体とし, 細粒砂が混じる。よく締まっている。

ふげん道路ピット東法面中段スケッチ

青枠：②層、③層の色調に関する部分

154, 155のエビデンス (1/6)

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット中段 1/10 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

スケッチ

①層Ⅰ  
 ・石灰質  
 ・土色は黄褐色～赤褐色(10YR7/3～2.5Y6/4)  
 ・粘着力は30%以内の角～重角粘土主体とする。  
 ・粘率 70%～80%  
 ・層厚は中～厚粘砂とあり、局所的に厚い。  
 ・下位の②層上を埋めたい状態、不整合関係は不明

②層Ⅰ  
 ・粘質シルト  
 ・黄褐色～赤褐色を呈する。  
 ・粘着力は30%以内の角～重角粘土の粘土主体とする。  
 ・粘率 70%～80%  
 ・砂粘層中に挟みこみ分布する。  
 ・下位の③層上を埋めたい状態、不整合関係は不明

③層Ⅰ  
 ・粘質シルト: 混じり砂  
 ・灰白色～黄褐色(2.5Y7/1～2.5Y7/2)  
 ・粘着力は30%以内の角～重角粘土の粘土主体とする。  
 ・粘率 15%～20%  
 ・粘率 15%～20%

②層Ⅱ  
 ・粘質シルト  
 ・灰白色(2.5Y7/1)  
 ・シルトを主体とし、粘粒砂が混入。  
 ・まれに最大径10mmの礫を含む。  
 ・粘率 15%～20%  
 ・②層Ⅰ中に挟みこみ分布する。

S1 ①層Ⅰ断面  
 ・S201～S202(201)  
 ・②層Ⅰの粘土、シルト混じり砂層を透過層から見かけられる。(10)  
 S2 ②層Ⅰ断面  
 ・S1, S7, S9, S10, S11, S12(201)  
 ・②層Ⅰの粘土、シルト混じり砂層を透過層から見かけられる。(20)  
 S3 ③層Ⅰ断面  
 ・S203～S204(203)  
 ・②層Ⅰを透過層から見かけられる。(13)  
 S4 ①層Ⅱ断面  
 ・S205～S206(205)  
 S5 ②層Ⅱ断面  
 ・同じ7.0の層厚の粘土、粘粒砂層から見かけられる。(10)



S6 ①層Ⅱ断面  
 ・S7, S8, S9, S10, S11, S12(201)  
 ・②層Ⅰの粘土、シルト混じり砂層を透過層から見かけられる。(10)  
 S7 ②層Ⅱ断面  
 ・S6からS12(201)  
 ・②層Ⅰの粘土、シルト混じり砂層を透過層から見かけられる。(10)  
 S8 ③層Ⅰ断面  
 S9 ③層Ⅰ断面  
 S10 ③層Ⅰ断面  
 S11 ③層Ⅰ断面  
 S12 ③層Ⅰ断面  
 ・②層Ⅰの粘土、シルト混じり砂層を透過層から見かけられる。(10)  
 S13 ③層Ⅰ断面  
 ・②層Ⅰの粘土、シルト混じり砂層を透過層から見かけられる。(10)  
 S14 ③層Ⅰ断面  
 ・②層Ⅰの粘土、シルト混じり砂層を透過層から見かけられる。(10)  
 S15 ③層Ⅰ断面  
 ・②層Ⅰの粘土、シルト混じり砂層を透過層から見かけられる。(10)  
 S16 ③層Ⅰ断面  
 ・②層Ⅰの粘土、シルト混じり砂層を透過層から見かけられる。(10)  
 S17 ③層Ⅰ断面  
 ・S18, S19, S20, S21(201)  
 ・②層Ⅰを透過層から見かけられる。(10)  
 S18 ③層Ⅰ断面  
 ・S17からS21(201)  
 ・②層Ⅰを透過層から見かけられる。(10)  
 S19 ③層Ⅰ断面  
 ・S17からS21(201)  
 ・②層Ⅰを透過層から見かけられる。(10)  
 S20 ③層Ⅰ断面  
 ・S17からS21(201)  
 ・②層Ⅰを透過層から見かけられる。(10)  
 S21 ③層Ⅰ断面  
 ・S20からS21(201)

法面勾配 35°  
 a: F142°W 75°W  
 b: F142°E 70°W  
 c: F142°E 62°W  
 d: F142°E 55°W  
 e: F142°E 48°W  
 f: F142°E 41°W  
 g: F142°E 34°W  
 h: N80°W 9°W  
 i: N80°E 2°E  
 j: N40°W 15°E  
 k: N40°E 10°W  
 D-1トレンチ ふげん道路ピット中段 1/10  
 作成日・確認日: 2022年3月28日  
 確認者: [Redacted]

青枠：②層、③層の色調に関する部分

作成日 2022/3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022-3-28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(観察系)										スケッチ原図(基礎層)					
			地質名	地質の特徴				地層境界		地質の色	土質化など、地質の性状	色調	スケッチ原図(基礎層)	スケッチ原図(基礎層)	スケッチ原図(基礎層)	スケッチ原図(基礎層)		
				・粒径構成、塊状構造、層理、質点の形状・大きさ、構造、質点の形状・大きさ	・その他、層理と異なる点や特徴的な点がある場合は、その点について記載	・地層境界の形状・深さ、傾斜角が規定できる場合は、その傾斜角を記載	・層理、浸透、土質化、地質の性状											
1	砂層 細かい黄褐色～黄灰色(10YR7.4～2.5/6.1) 厚さは20cm以下の角一辺角状主体である。 塊径20cm 底層は中粒砂～粗粒砂であり、厚は極めて薄い。 下部の土層と境界が不明瞭であると考えられる。	砂層 細かい黄褐色～黄灰色(10YR7.4～2.5/6.1) 厚さは20cm以下の角一辺角状主体である。 塊径20cm 底層は中粒砂～粗粒砂であり、厚は極めて薄い。 下部の土層と境界が不明瞭であると考えられる。	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(黄褐色)と、色調を示す記号(注1)が不明瞭であるため、土質厚を記載し、色調(黄褐色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
2	埋戻し砂 黄褐色～黄灰色を呈する。 厚さは埋戻し砂～粗粒砂であり、厚3～50mmの層が混じる。 土質が混入する。 砂層の中に存在して分層する。 下部の土層と境界が不明瞭であると考えられる。	-	-	-	-	-	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
3	埋戻し砂 黄褐色～黄灰色(10Y7.12～2.5/7.2) 厚さは埋戻し砂～粗粒砂からなり、厚40cmの花崗岩層理が混じる。 塊径20cm 土質が混入する。	埋戻し砂 黄褐色～黄灰色(10Y7.12～2.5/7.2) 厚さは埋戻し砂～粗粒砂からなり、厚40cmの花崗岩層理が混じる。 塊径20cm 土質が混入する。	○	○	○	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	色調(黄褐色)と、色調を示す記号(注1)が不明瞭であるため、土質厚を記載し、色調(黄褐色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
4	砂質シルト 黄白色(10Y7.1) シルトを主体とし、粗粒砂が混じる。 厚さは埋戻し砂～粗粒砂からなり、厚40cmの花崗岩層理が混じる。 塊径20cm 土質が混入する。	-	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
5	f 10-108° W3° N	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
6	g 10-122° W2° E	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
7	h 10-150° W3° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
8	i 10-184° E2° S	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
9	j 10-140° W2° SE	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-
10	k 10-12° E10° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-



スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ ふげん道路ピット中段 ②層の記載)

作成日 2022.6.17

作成者

確認日 2022.6.17

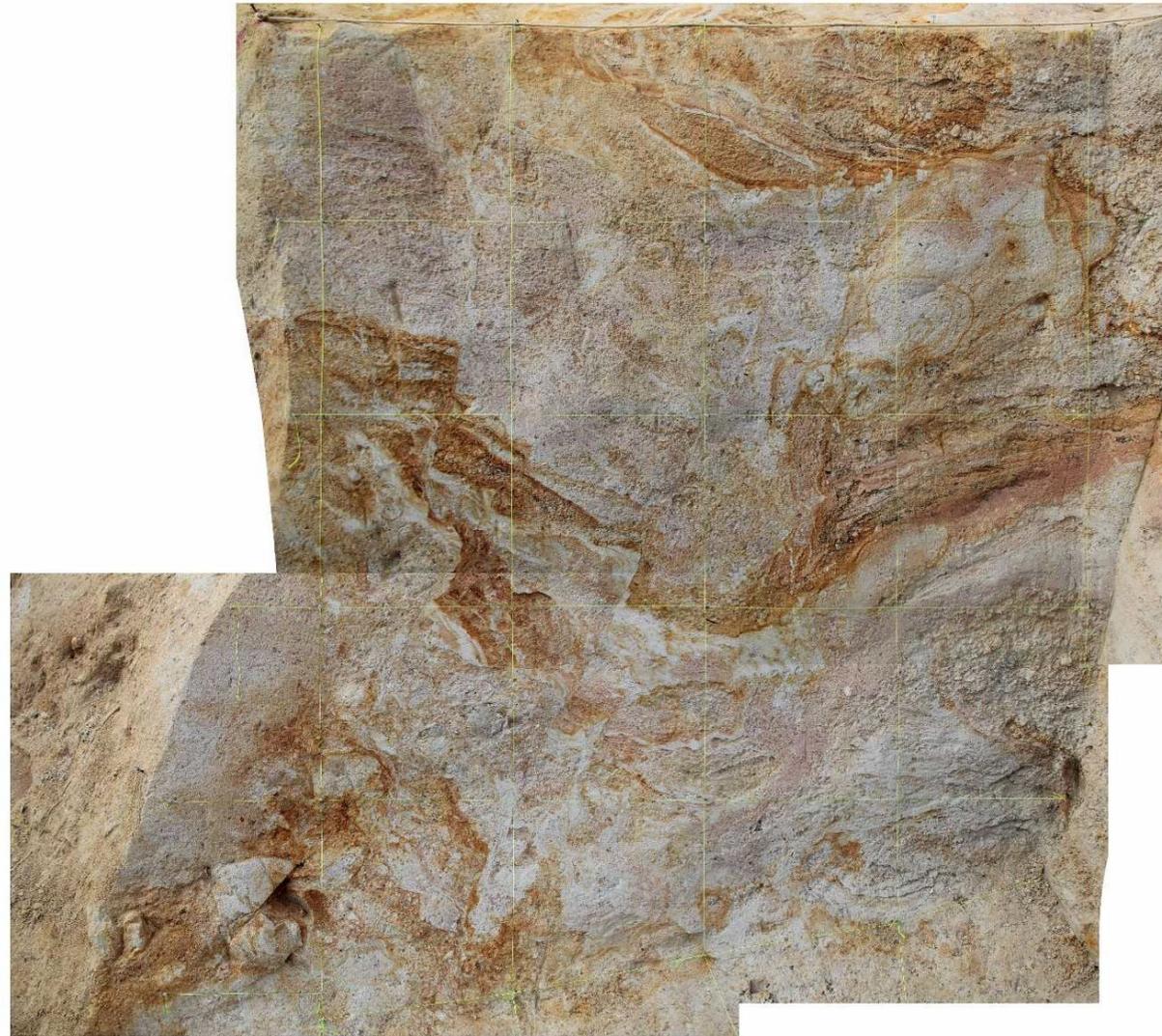
確認者

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input type="checkbox"/>	選定した記事内容	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ 削除・変更・追記した理由 (スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容 としている場合は、それとの変更点)
②層 I	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。 礫率15～20% くさり礫が混じる。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。 礫率15～20% くさり礫が混じる。	②層・礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。	・色調(灰白色)と、色調を示す記号(2.5Y7/12)が整合していない。法面写真を確認し、色調(灰白色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
②層 II	砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。 まれに最大径18cmの礫を含む。 よく締まっている。 ②層 I 中に挟まれて分布する。			

スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ ふげん道路ピット中段\_③層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
③層 I	<p>砂礫 にふい黄橙色～黄灰色(10YR7/4～2.5Y6/11) 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。 礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。 下位の②層 I を削り込んでいるため、不整合関係であると考えられる。</p>	<p>砂礫 にふい黄橙色～黄灰色(10YR7/4～2.5Y6/1) 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。 礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。 下位の②層 I を削り込んでいるため、不整合関係であると考えられる。</p>	<p>③層: 砂礫 にふい橙色～黄灰色(10YR7/4～2.5Y6/1) 礫は径20cm以下の角～亜角礫主体である。礫率30～50% 基質は中粒砂～粗粒砂であり、淘汰極めて悪い。 礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。砂は細粒砂～粗粒砂であり、径5～50mmの礫が混じる。ラミナが発達する。砂礫層中に挟在して分布する。</p>	<p>・色調(黄灰色)と、色調を示す記号(2.5Y6/11)が整合していない。 観察面写真を確認し、色調(黄灰色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。</p>
③層 II	<p>礫混じり砂 黄灰色～黄褐色を呈する。 砂は細粒砂～粗粒砂であり、径5～50mmの礫が混じる。 ラミナが発達する。 砂礫層中に挟在して分布する。 下位の②層 I を削り込んでいるため、不整合関係であると考えられる。</p>			

2015年7月撮影

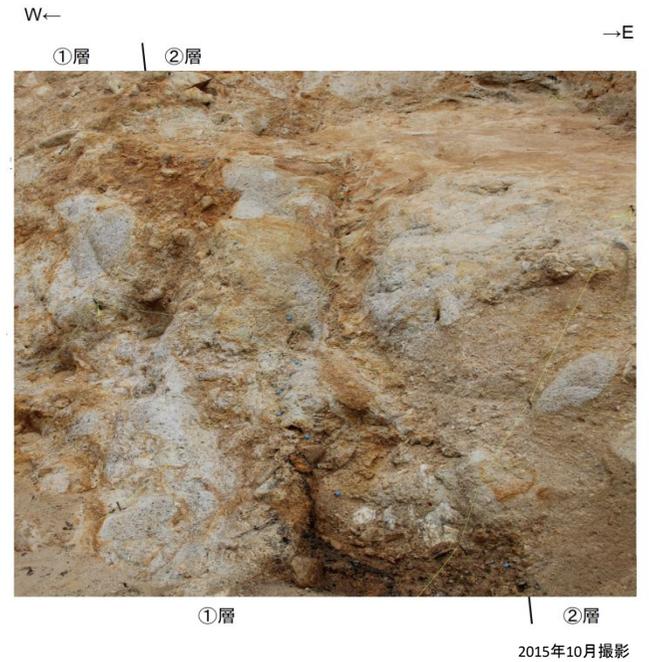
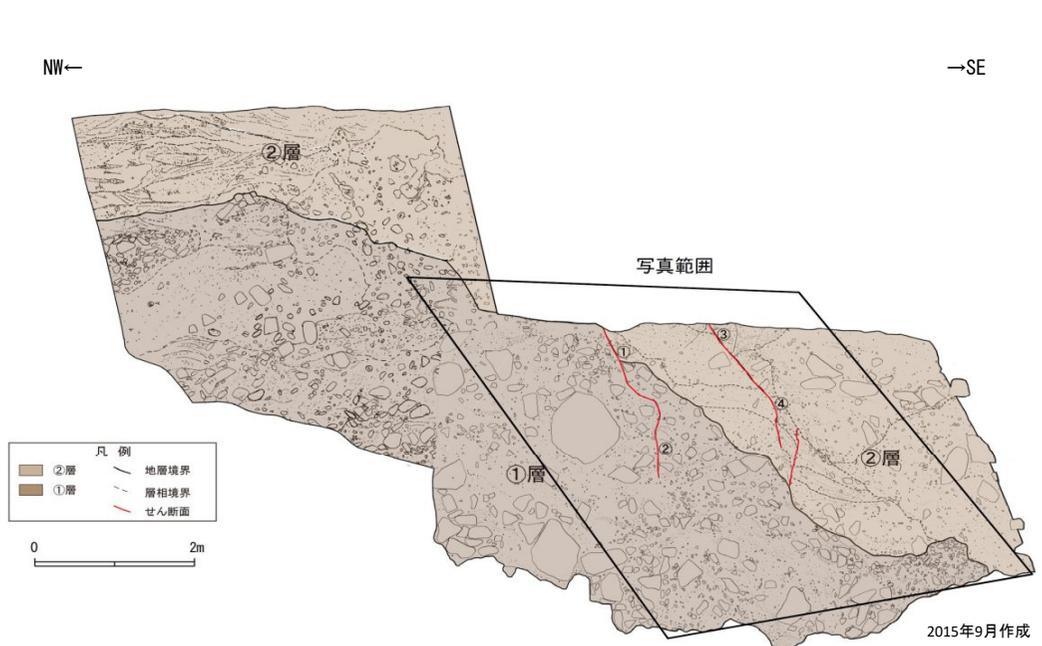


50cm

# K断層の性状(ふげん道路ピット)

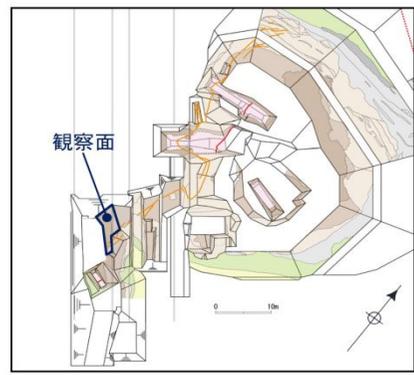
156 (ふげん道路ピット東法面下段) 修正箇所: 橙色枠

K断層の南方への連続性を追跡, 確認した結果, K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認。



- ②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色~灰黄色 (2.5Y7/12~2.5Y7/2)  
細粒砂~粗粒砂からなり, 径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。  
砂質シルト 灰白色 (2.5Y7/1)  
シルトを主体とし, 細粒砂が混じる。よく締まっている。
- ①層: 砂礫 にぶい赤褐色 (5YR4/3)  
礫は径50cm以下の亜角礫を主体とする。礫率30~60%であり, 淘汰は悪い。  
基質は粗~中粒砂で固く締まっている。

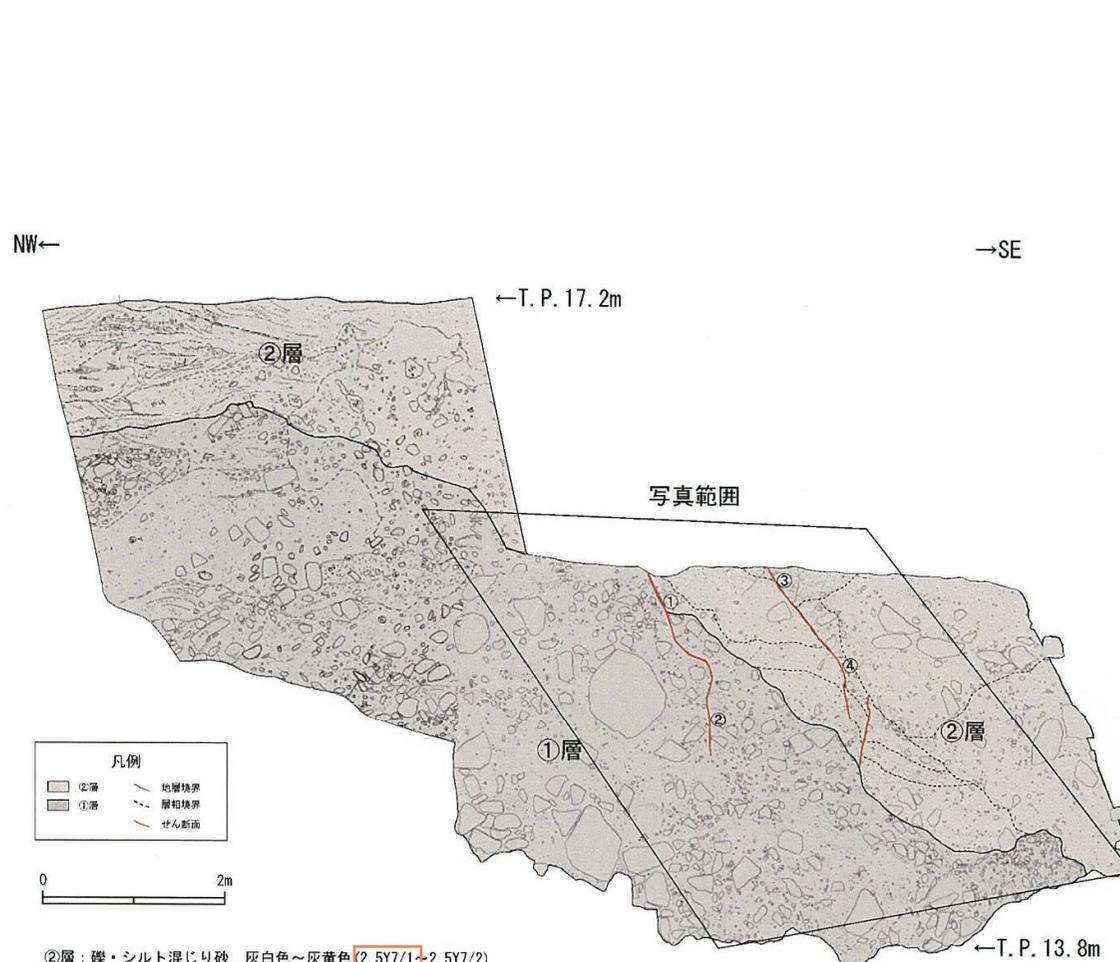
- ① f: N31° W62° W
- ② f: N1° W58° W
- ③ f: N5° W67° W
- ④ f: N1° E47° W
- f: せん断面



調査位置図

## K断層の性状(ふげん道路ピット)

K断層の南方への連続性を追跡, 確認した結果, K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認。

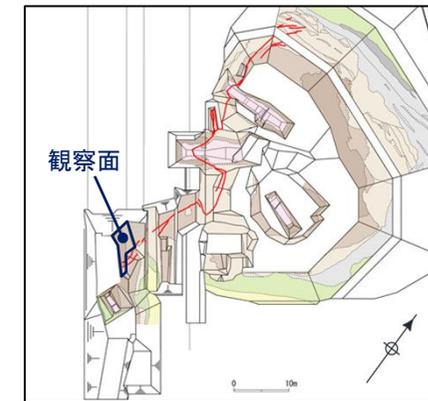


②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1~2.5Y7/2)  
 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩礫が混じる。くさり礫が混じる。  
 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1)  
 シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。

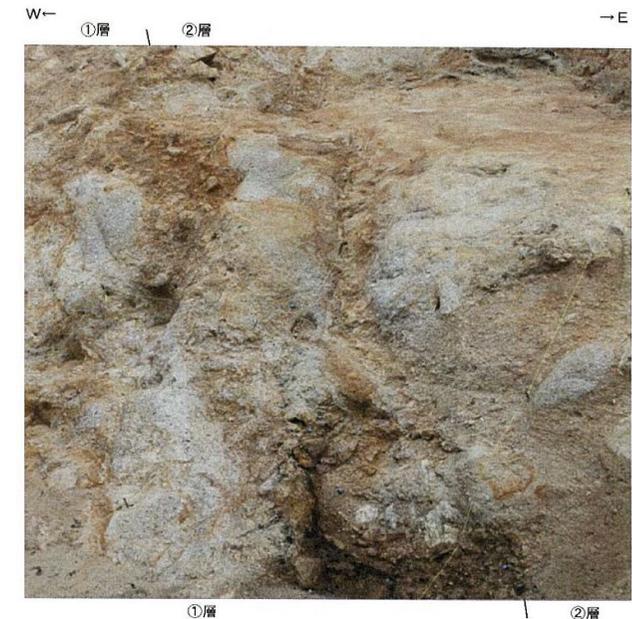
①層: 砂礫 にぶい赤褐色(5YR4/3)  
 礫は径50cm以下の亜角礫を主体とする。礫率30~60%であり、淘汰は悪い。  
 基質は粗～中粒砂で固く締まっている。

- ① f: N31° W62° W  
 ② f: N1° W58° W  
 ③ f: N5° W67° W  
 ④ f: N1° E47° W  
 f: せん断面

作成日: 2022年3月31日



調査位置図



撮影: 2015年10月

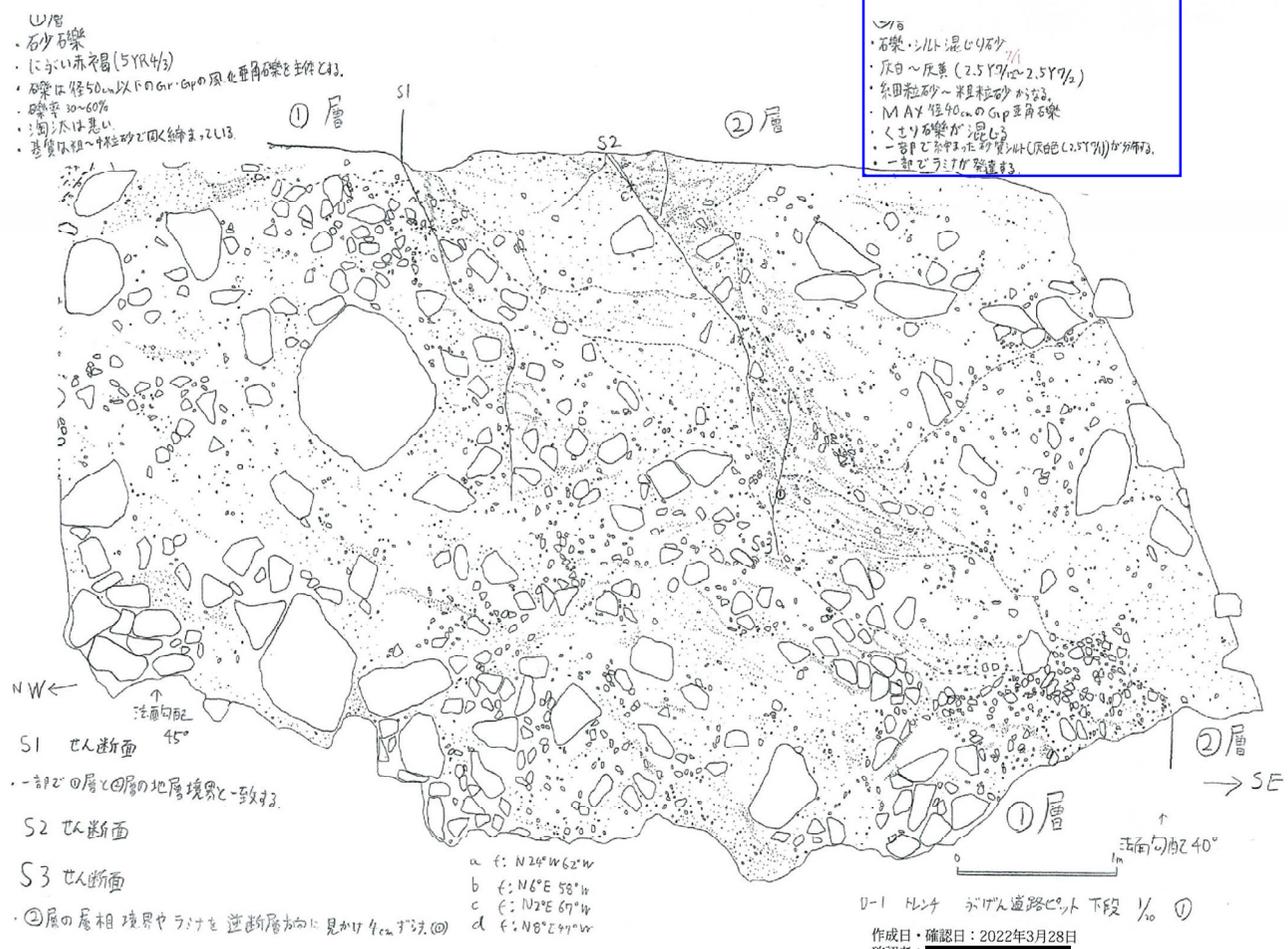
青枠：②層の色調に関する部分

156のエビデンス (1/5)

スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 ① 1/20 スケッチ

スケッチ原図に以下の情報が書かれているか  
 ・観察面の対象箇所名  
 ・観察面の枠  
 ・縮尺  
 ・方位、スケール(または、グリッドの間隔)

スケッチ



青枠：②層の色調に関する部分

作成日 2022/3/28 作成者 [Redacted] 確認者 [Redacted] 確認日 2022.3.28

No.	地層の性状に関する記事	適正化すべき記事内容	スケッチ原図(第四系)										スケッチ原図(基盤地)								
			地質名	地質の特徴				地層境界			土質化など 地層構造・時間関係を示すもの			定向・傾斜	地質名	風化・変質	割れ目・せん断割れ目	色調	走向・傾斜	記事・スケッチを削除・変更・追記した理由	
2	<p>層-シルト混じり砂 灰白色~灰黄色(SY7/12~2SY7/2) 層厚約~種砂砂からなる。 MAX厚40cmのGpを有する。 一部で種砂の砂質シルト(灰白色(SY7/11))が分布する。 一部でラマナが発達する。</p>	<p>層-シルト混じり砂 灰白色~灰黄色(SY7/1~2SY7/2) 層厚約~種砂砂からなる。 MAX厚40cmのGpを有する。 くさりが混じる。 一部で種砂の砂質シルト(灰白色(SY7/11))が分布する。 一部でラマナが発達する。</p>																			色調(灰白色)と、色調を示す記号(SY7/12)が一致していない。追加写真を確認。色調(灰白色)が正しい。色調を示す記号の書き方で誤っていると判断した。
	<p>砂礫 ① Si-1赤褐色(SYB4-7) ② 厚は50cm以下のG+Gpの風化垂角礫を主体とする。 層厚約~50% 淘洗は悪い。 基質は粗~中粒砂で固く締まっている。</p>																				

No.	破砕部に関する記事	適正化すべき記事内容	破砕帯										記事・スケッチを削除・変更・追記した理由								
			破砕度区分(Hz,Hb,H)	破砕部の性状 ・破砕部の種 ・破砕部内物質 ・種 ・破砕部の連続性・連続性 ・断面傾斜が認められる薄片を主体とし基質も層状化した地層からなる破砕部の性状	内削構造 ・傾斜構造、接合面構造、異常構造、傾斜状況など	断面区分 断面がワン層、断面角質、カクレーサイドに区分し記載	破砕種 (実測できる場合)	最新活動面 (認定した場合)	条線	変位・変形量 ・露頭面に沿って計測した変位・変形量	色調	走向・傾斜 ・その面を最も代表する層厚で測定する。あるいは、至せん断面について複数面で測定する。									
a	F.N24° W62° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
b	F.N8° E58° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
c	F.N2° E57° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
d	F.N8° E47° W	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○
S1	せん断面 一部で1層と2層の地層境界と一致する。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S2	せん断面	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
S3	せん断面 2層の層理構造やラマナを逆断層方向に見かけ4cmずらす。	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-

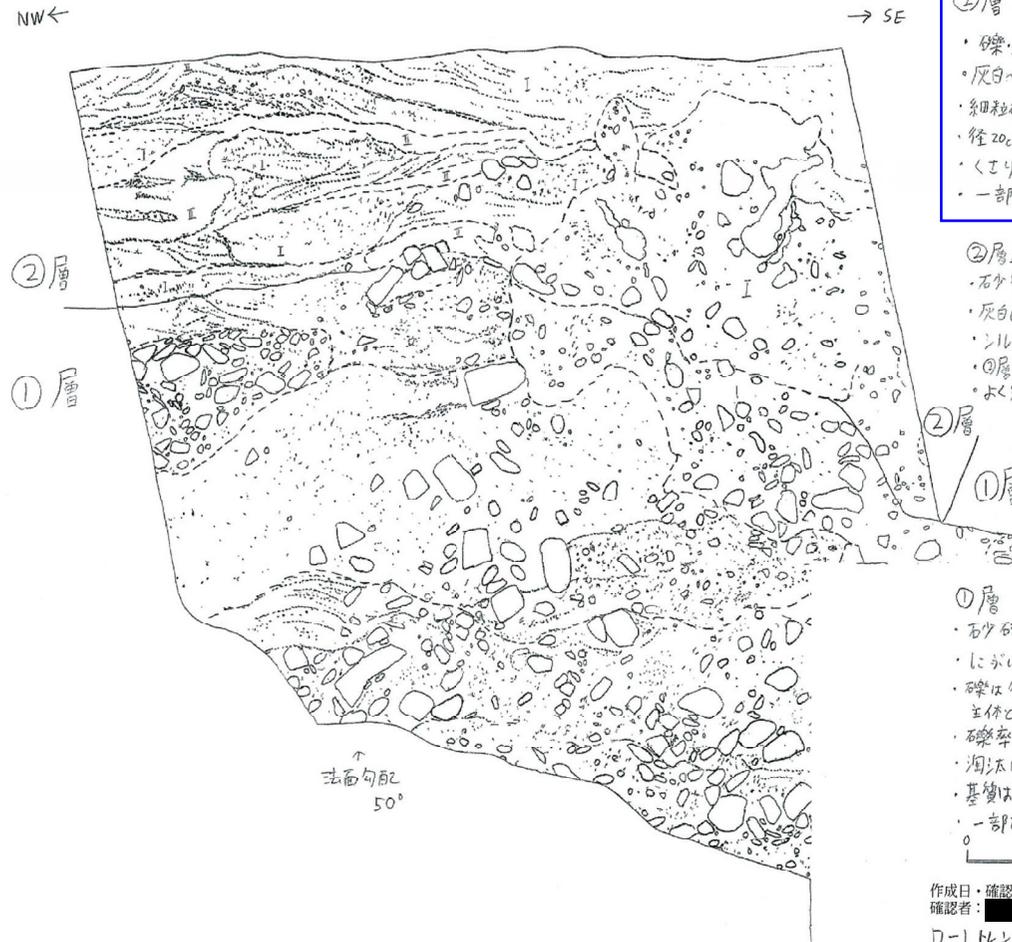
スケッチ名 D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 ② 1/20 スケッチ

スケッチ原因に以下の情報が書かれているか

- 観察面の対象箇所名
- 観察面の枠
- 縮尺
- 方位, スケール(または, グリッドの間隔)

○

スケッチ



作成日・確認日：2022年3月28日

確認者：[Redacted]

D-1トレンチ ふげん道路ピット下段 ② 1/20



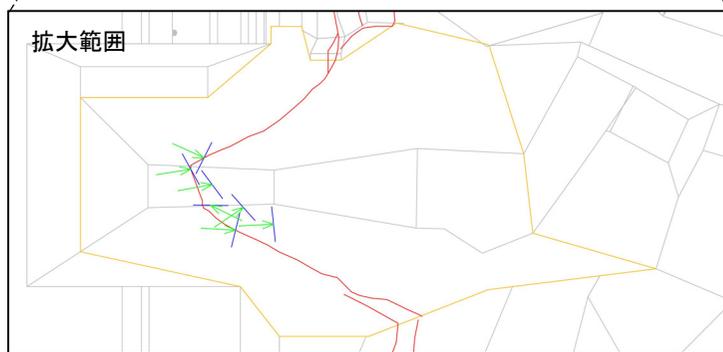
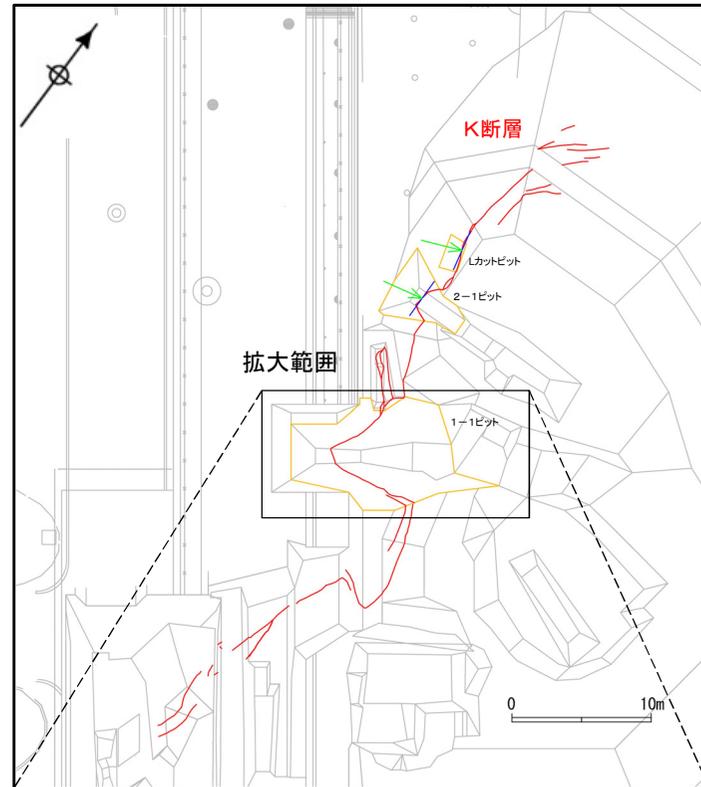
スケッチ原図⇒報告書スケッチ記載記事チェックシート(D-1トレンチ ふげん道路ピット下段\_②層の記載)

No.	スケッチ原図		報告書スケッチの記事	スケッチ原図(地層の性状に関する記事)から選定した記事内容へ削除・変更・追記した理由(スケッチ原図(地層の性状に関する記事)を適正化すべき記事内容としている場合は、それとの変更点)
	地層の性状に関する記事 スケッチ原図から正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	適正化すべき記事内容 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	選定した記事内容	
スケッチ原図 ピット下段 ①ふげん道路	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 MAX径40cmのGp垂角礫。 くさり礫が混じる。 一部で締まった砂質シルト(灰白色(2.5Y7/1))が分布する。 一部でラミナが発達する。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 MAX径40cmのGp垂角礫。 くさり礫が混じる。 一部で締まった砂質シルト(灰白色(2.5Y7/1))が分布する。 一部でラミナが発達する。		
スケッチ原図 ピット下段 ②ふげん道路 I 層	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/12～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 ② 径20cm以下のGr・Gp礫を含む。 くさり礫が混じる。 一部でラミナが発達している。	礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなる。 径20cm以下のGr・Gp礫を含む。 くさり礫が混じる。 一部でラミナが発達している。	②層: 礫・シルト混じり砂 灰白色～灰黄色(2.5Y7/1～2.5Y7/2) 細粒砂～粗粒砂からなり、径40cmの花崗斑岩垂角礫が混じる。くさり礫が混じる。 砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。よく締まっている。	・含まれる礫の礫径は最大径(40cm)とした。 ・色調(灰白色)と、色調を示す記号(2.5Y7/12)が整合していない。 法面写真を確認し、色調(灰白色)が正しく、色調を示す記号の書き間違いであると判断した。
スケッチ原図 トレンチ下段 ②ふげん道路 II 層	砂質シルト 灰白色(2.5Y7/1) シルトを主体とし、細粒砂が混じる。 ②層 I 中に層状～レンズ状に多く挟まれて分布する。 よく締まっている。			

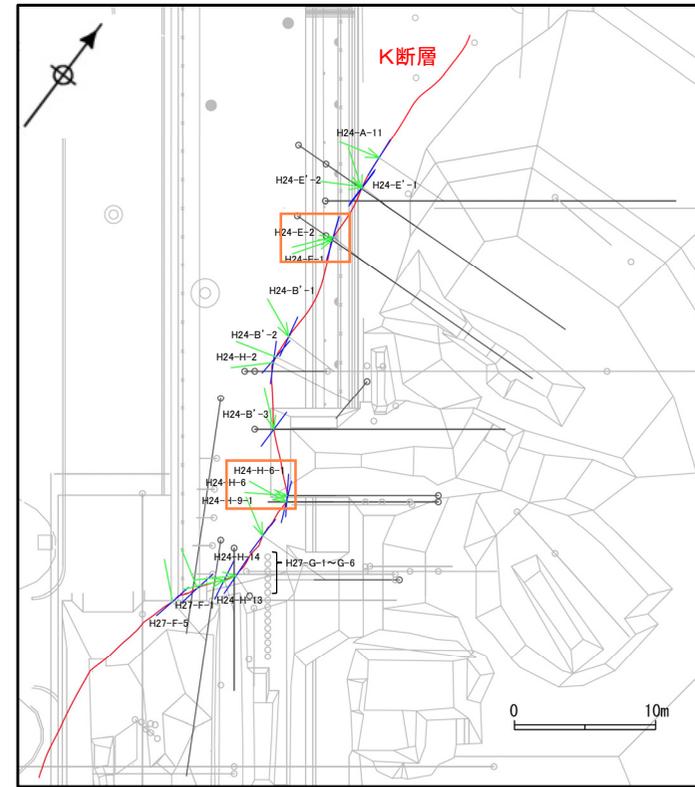
余白

# K断層の性状

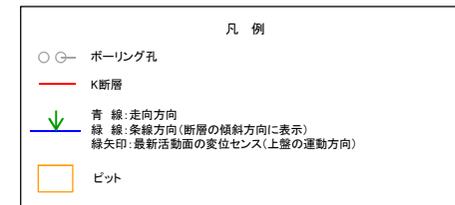
- 基盤岩中でK断層の走向・傾斜を確認した箇所における条線方向及び最新活動面の変位センスを示す(左図:ピット調査結果, 右図:ボーリング調査結果)。
- K断層は、1-1ピット付近で局所的に走向をNW-SE方向に変えるが、大局的にはN-S走向、高角度西傾斜、最新活動面の変位センスが逆断層センス卓越の特徴を有する破碎帯である。



K断層の確認箇所(ピット, 地表面投影)



K断層の確認箇所(ボーリング, T.P.-15mに投影)

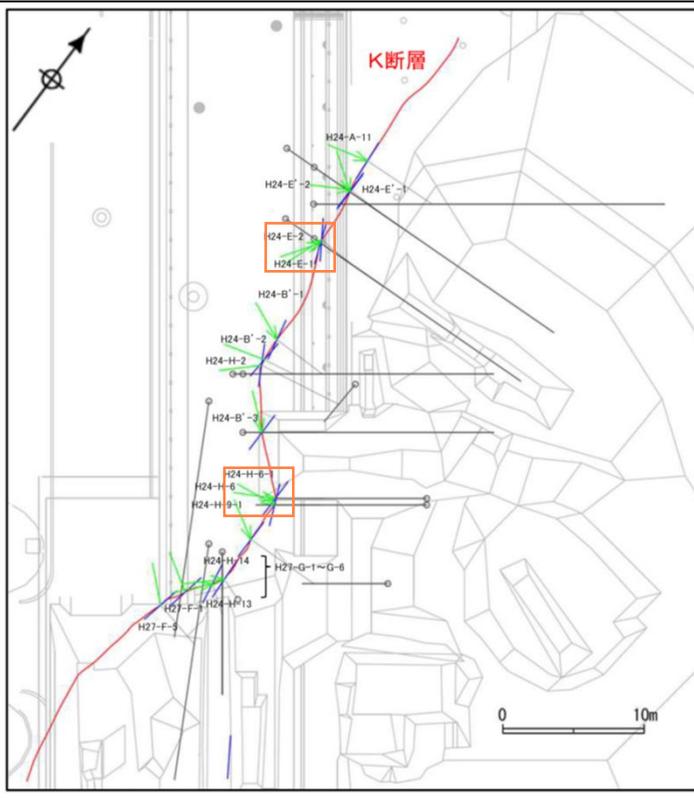
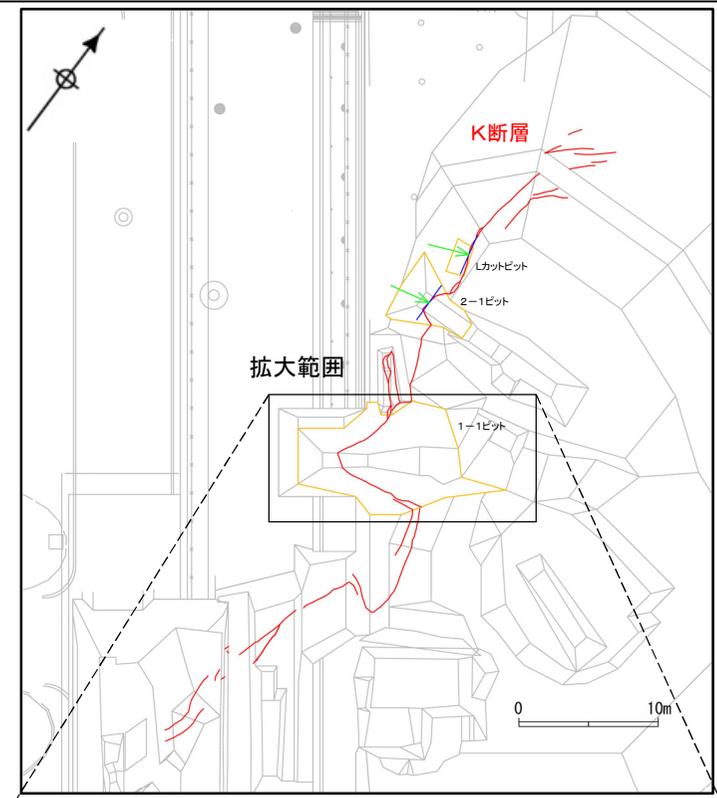


# K断層の性状

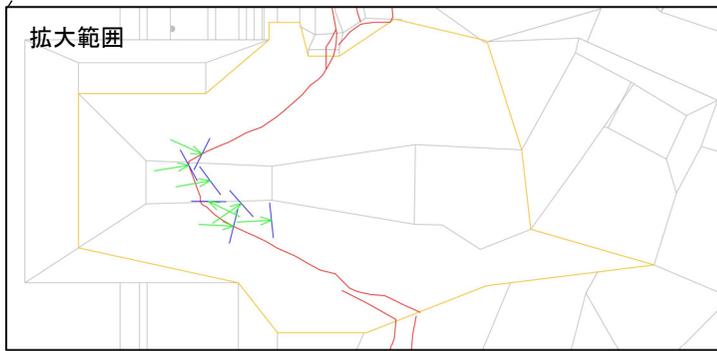
157:2~5, 7, 8の最新活動面深度及び走向・傾斜を修正した箇所を反映

修正後

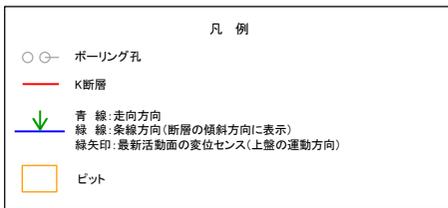
- 基盤岩中でK断層の走向・傾斜を確認した箇所における条線方向及び最新活動面の変位センスを示す(左図:ピット調査結果, 右図:ボーリング調査結果)。
- K断層は, 1-1ピット付近で局所的に走向をNW-SE方向に変えるが, 大局的にはN-S走向, 高角度西傾斜, 最新活動面の変位センスが逆断層センス卓越の特徴を有する破碎帯である。



K断層の確認箇所(ボーリング, T.P.-15mに投影)



K断層の確認箇所(ピット, 地表面投影)



余白

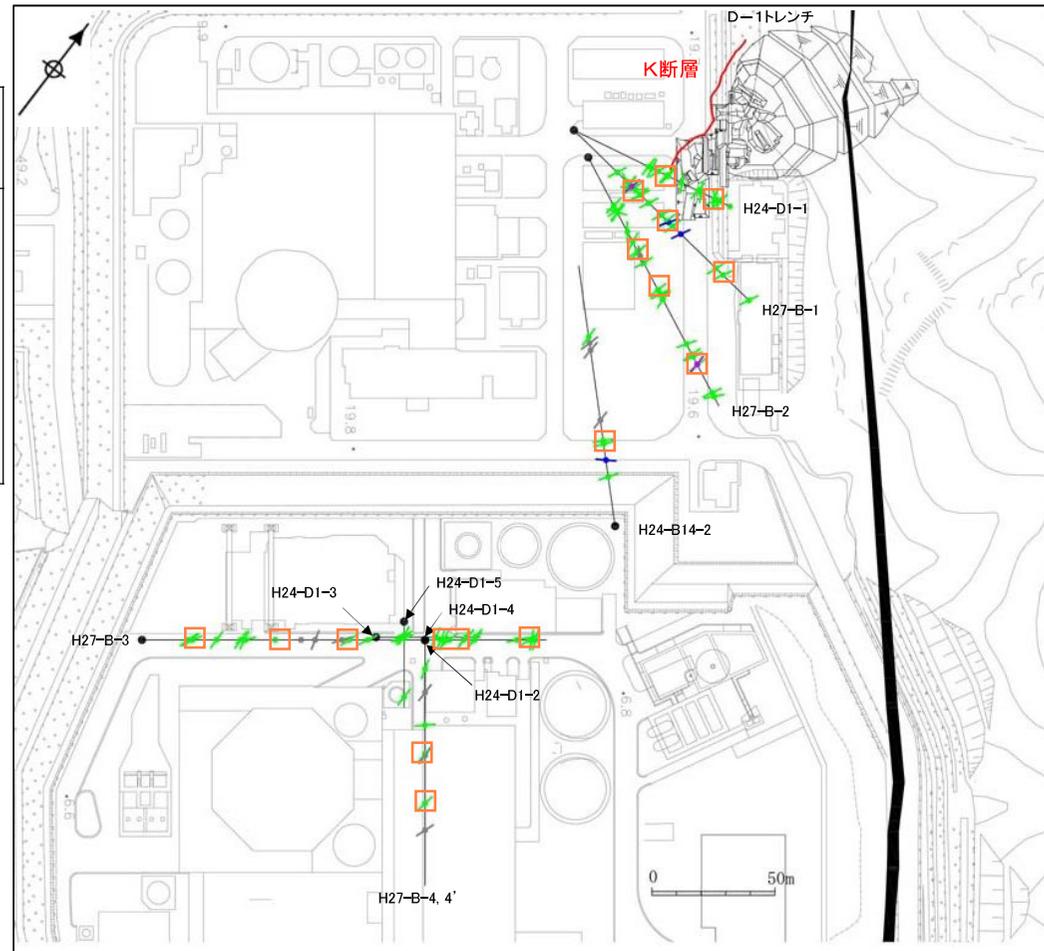
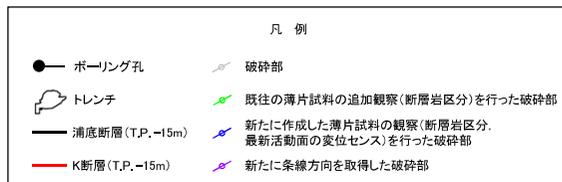
K断層の連続性評価について

### K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には、①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部のうち、薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分、②条線方向の追加データの取得、③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- なお、断層岩については、ボーリングコアの肉眼観察による区分を基本としているが、より詳細な観察データである薄片試料の観察結果も踏まえた区分を行った。

#### 追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	<p>【追加観察】</p> <p>②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施</p>
K断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加</p> <p>③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加</p>

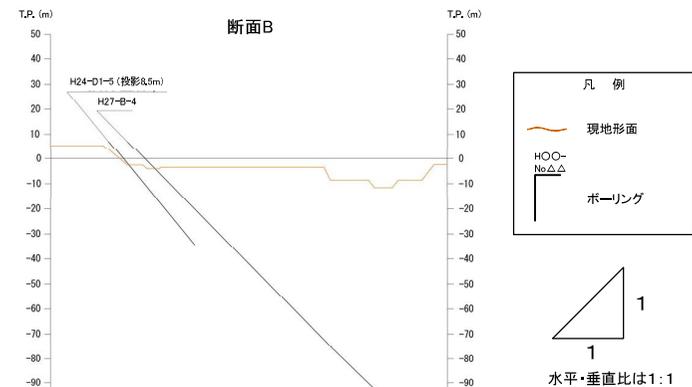
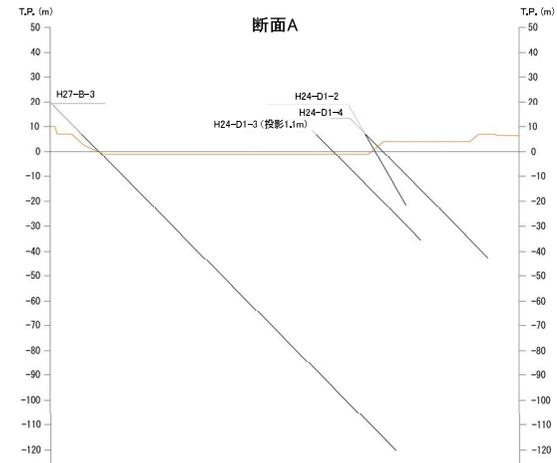
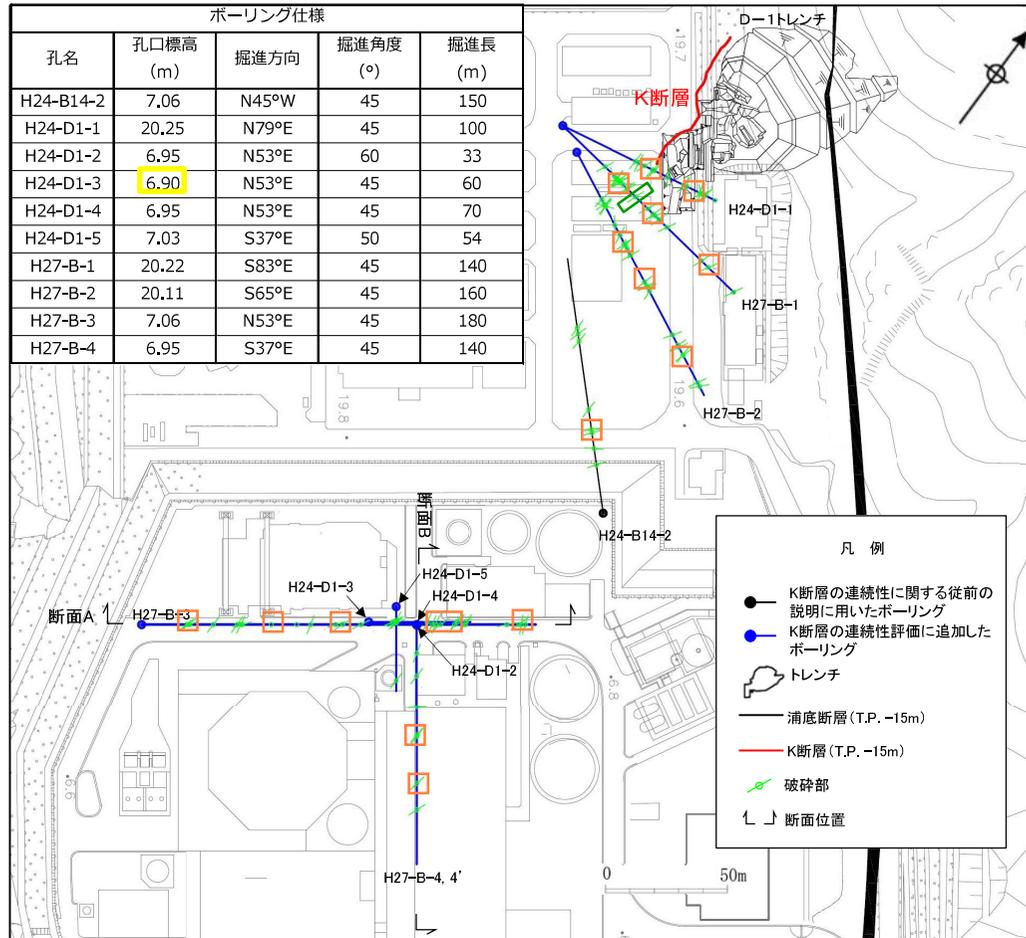


追加観察又は追加データを取得した破碎部

K断層の連続性評価について

## K断層の連続性評価に関する従前の説明からの追加データ

- 主要な論点の一つに「敷地内のD-1 トレンチ内に認められるK断層の活動性及び原子炉建屋直下を通過する破砕帯との連続性等の調査・評価結果を従前の説明に加えて申請時の最新知見に照らして説明すること。」がある。
- このうち、K断層の連続性評価については、従前の説明ではK断層と2号炉原子炉建屋等の重要施設の間を横断するH24-B14-2孔を代表させて、K断層の南方にはK断層の性状と類似する破砕部が無いことを示してきた(K断層とは性状が類似しないD-1破砕帯については、H24-D1-1～5孔の該当箇所を示してきた)。
- K断層の連続性に関する従前の説明に用いたデータに加え、K断層と重要施設の間に位置する**10孔のボーリング**のデータ(破砕部の走向・傾斜、断層ガウジ・断層角礫の有無、条線方向、最新活動面の変位センス)も踏まえたK断層の連続性検討結果を示す。



K断層南方の調査位置および対象のボーリング仕様

# K断層の連続性評価の考え方

157 : K断層南方10孔の破碎部のうち、最新活動面深度及び走向・傾斜を修正した箇所を反映

修正後

K断層の原子炉建屋直下方向への連続性を確認するための考え方を以下に示す。

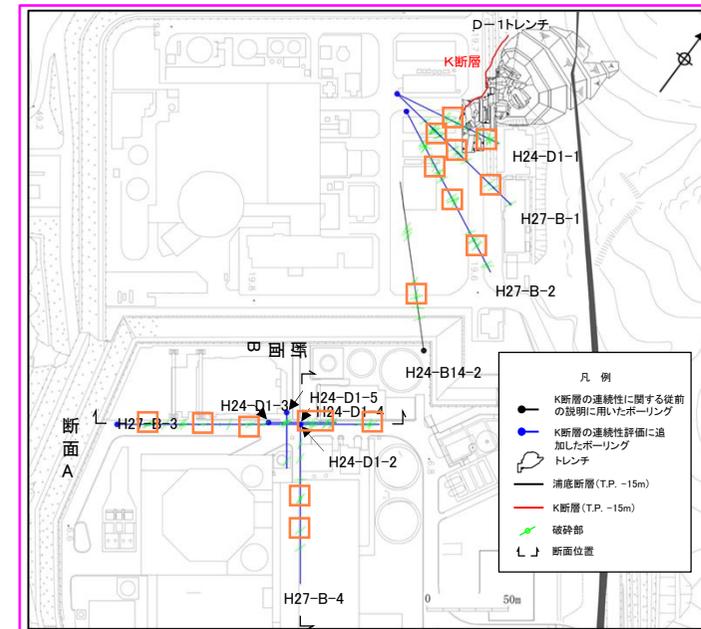
## 敦賀発電所敷地内破碎部の連続性評価の考え方に基づく検討(方法1)

K断層についても、敦賀発電所敷地内破碎部の連続性評価の考え方に基づき、K断層が確認されているD-1トレンチに最も近いH24-D1-1孔の検討を実施する。

ボーリング仕様				
孔名	孔口標高 (m)	掘進方向	掘進角度 (°)	掘進長 (m)
H24-B14-2	7.06	N45°W	45	150
H24-D1-1	20.25	N79°E	45	100
H24-D1-2	6.95	N53°E	60	33
H24-D1-3	6.90	N53°E	45	60
H24-D1-4	6.95	N53°E	45	70
H24-D1-5	7.03	S37°E	50	54
H27-B-1	20.22	S83°E	45	140
H27-B-2	20.11	S65°E	45	160
H27-B-3	7.06	N53°E	45	180
H27-B-4	6.95	S37°E	45	140

注：H27-B-4 孔には再掘削孔であるH27-B-4'孔を含む

K断層南方の調査位置および対象のボーリング孔と仕様



## K断層の連続性評価における更なる検討(方法2)

K断層の連続性評価においては、いずれかのボーリング孔において、K断層と類似する破碎部が存在しなかった場合においても、K断層に関する有識者会合での指摘<sup>(注)</sup>やK断層が短区間で屈曲する特徴を有していることを踏まえ、D-1トレンチに最も近いH24-D1-1孔の起点破碎部から走向・傾斜が $\pm 20^\circ$ の範囲外の破碎部について検討を実施する。(方法2-①)

また、念のため、対象ボーリング孔で確認された全破碎部に関して、K断層の性状(K断層との走向・傾斜の差を含む)との比較を実施する。(方法2-②)

(注) 評価書の総合評価: K断層の連続性については、D-1トレンチ及び原電道路ピットよりも南方へ連続している可能性があり、D-1破碎帯等、原子炉建屋直下を通過する破碎帯のいずれかと一連の構造である可能性が否定できない。

余白

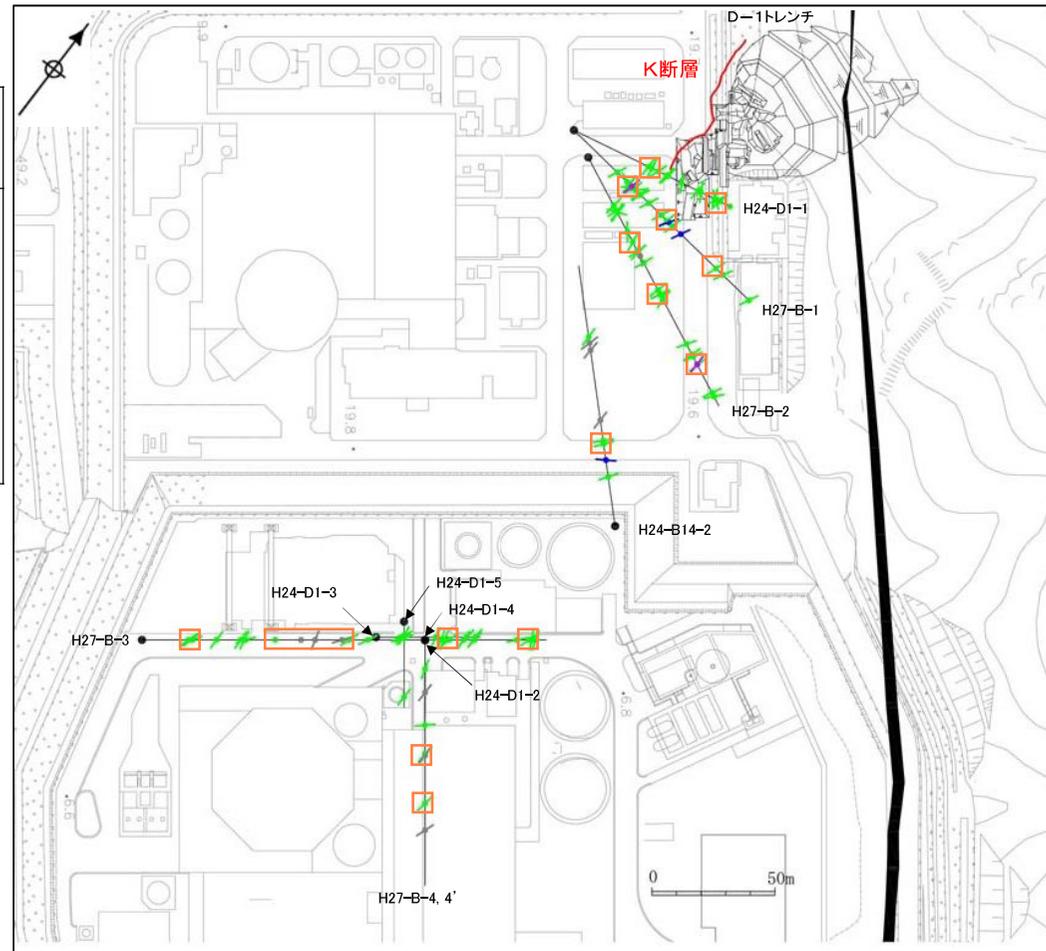
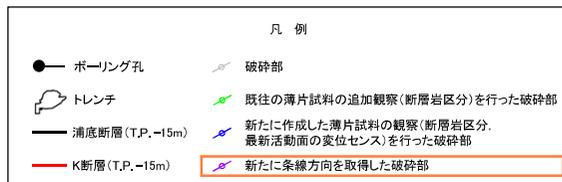
K断層の連続性評価について

### K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

- K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には、①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部のうち、薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分、②条線方向の追加データの取得、③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- なお、断層岩については、ボーリングコアの肉眼観察による区分を基本としているが、より詳細な観察データである薄片試料の観察結果も踏まえた区分を行った。

#### 追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	<p>【追加観察】</p> <p>②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施</p>
K断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加</p> <p>③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加</p>



追加観察又は追加データを取得した破碎部

K断層の連続性評価について

## K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

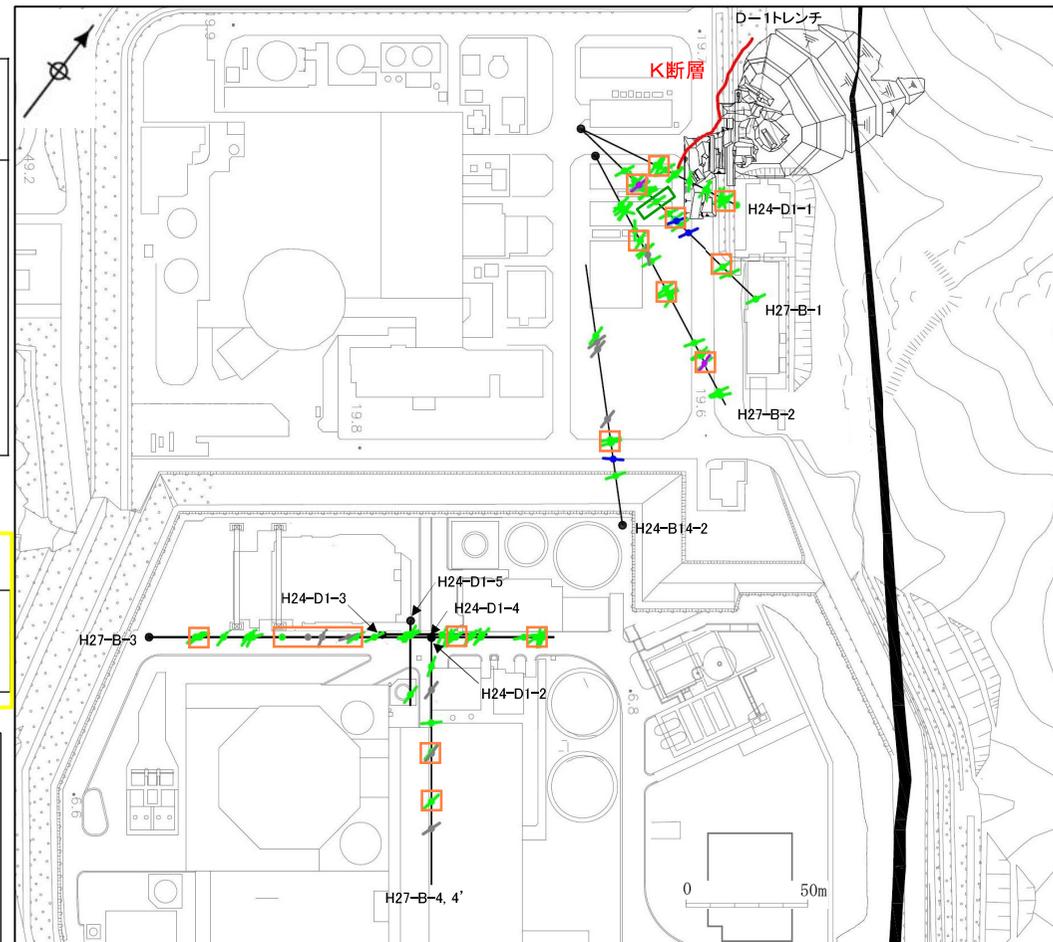
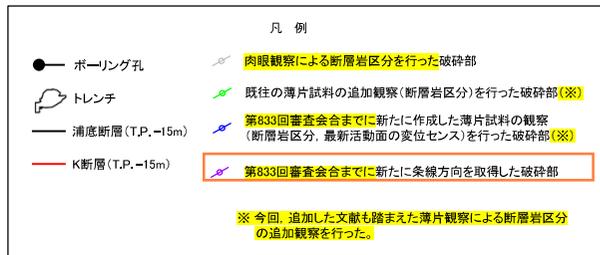
- K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、**第833回審査会合までに追加観察や追加データの取得を行った。**追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。
- 具体的には、①これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部のうち、薄片試料を作成したものについては薄片観察結果に基づく断層岩区分、②条線方向の追加データの取得、③最新活動面の変位センスの追加データの取得である。
- **断層岩については、より詳細な観察データである薄片観察を実施している場合は、連続性評価には薄片観察による評価を用いることとした。**
- **また、今回、追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分の追加観察を行った。**

### 第833回審査会合までに実施した追加観察及び追加データの取得の内容

K断層	<p>【追加観察】</p> <p>②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施</p>
K断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加</p> <p>③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加</p>

### 今回実施した追加観察の内容

K断層及びK断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>④断層岩区分：追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分を実施</p>
----------------	--------------------------------------------------------



追加観察又は追加データを取得した破碎部

# K断層との連続性を検討する上で重要なデータの追加観察/追加データの取得

・K断層及びK断層南方の破碎部の性状を示すデータについては、K断層との連続性を検討する上で重要なデータであることから、追加観察や追加データの取得を行った。追加観察及び追加データの取得の内容を以下に示す。

第833回審査会合までに実施した追加観察及び追加データの取得の内容

157：K断層南方10本の破碎部のうち、最新活動面深度及び走向・傾斜が変更になった箇所、新たに薄片観察を行った箇所（薄片追加作製）を反映

K断層	<p>【追加観察】</p> <p>②条線方向：周囲の確認箇所と運動方向が大きく異なる破碎部について、条線方向の追加観察を実施</p>
K断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>①断層岩区分：これまでボーリングコアの観察結果のみに基づき断層岩区分を行ってきた破碎部について、薄片観察結果に基づく断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>②条線方向：これまで条線方向を取得していなかった破碎部について、データを追加</p> <p>③最新活動面の変位センス：これまで最新活動面の変位センスを取得していなかった破碎部について、データを追加</p>

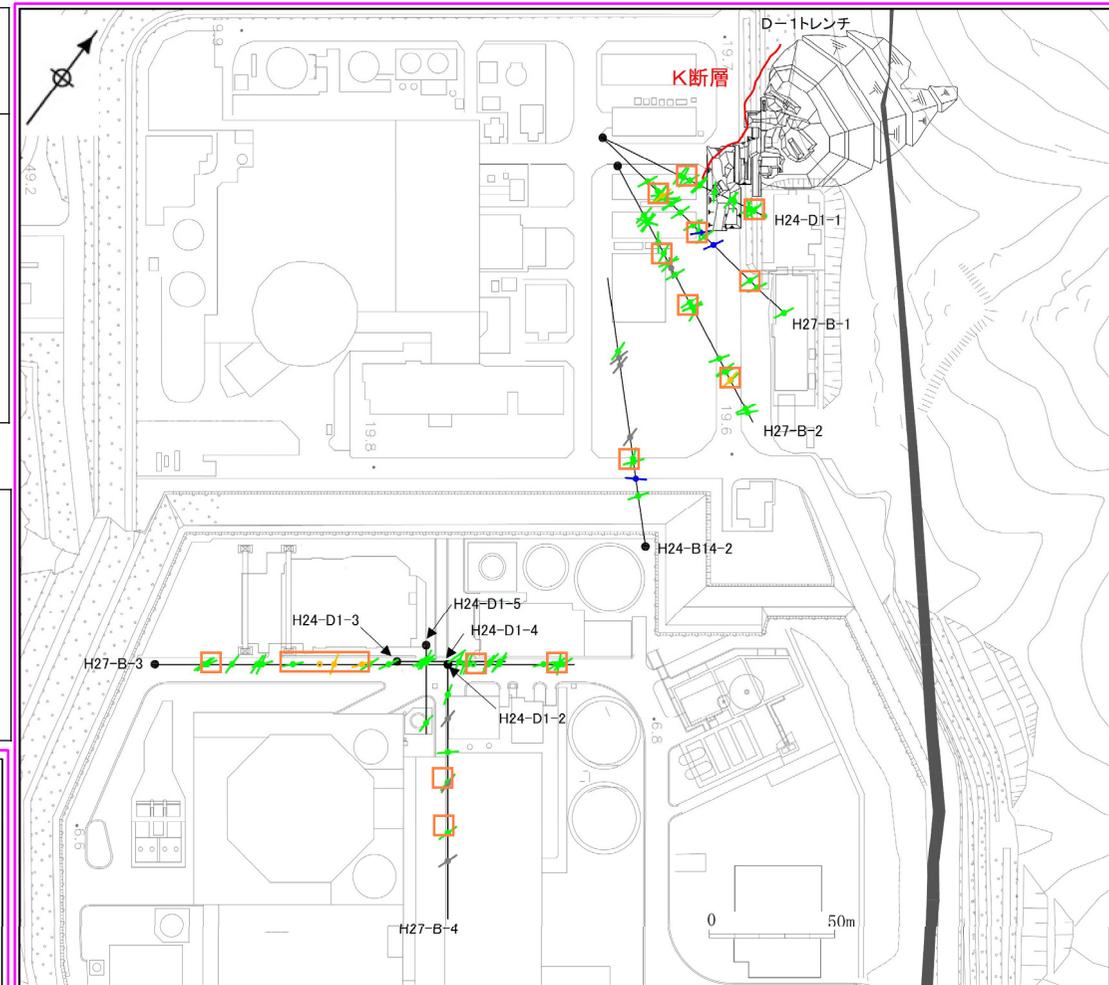
今回実施した追加観察の内容

K断層及びK断層南方の破碎部	<p>【追加観察】</p> <p>④断層岩区分：追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分を実施</p> <p>【追加データの取得】</p> <p>⑤最新活動面の変位センス及び断層岩区分：肉眼観察で断層ガウジと評価された破碎部のうち、最新活動面の変位センスや断層岩区分を取得していなかった破碎部について薄片試料を作製し、データを追加</p>
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

凡例

- ボーリング孔
- トレンチ
- 浦底断層 (T.P. -15m)
- K断層 (T.P. -15m)
- 肉眼観察による断層岩区分を行った破碎部
- 既往の薄片試料の追加観察 (断層岩区分)を行った破碎部(※)
- 第833回審査会合までに新たに作成した薄片試料の観察 (断層岩区分, 最新活動面の変位センス)を行った破碎部(※)
- 第839回審査会合以降に新たに薄片観察 (断層岩区分, 最新活動面の変位センス)を行った破碎部

※ 追加した文献も踏まえた薄片観察による断層岩区分の追加観察を行った。

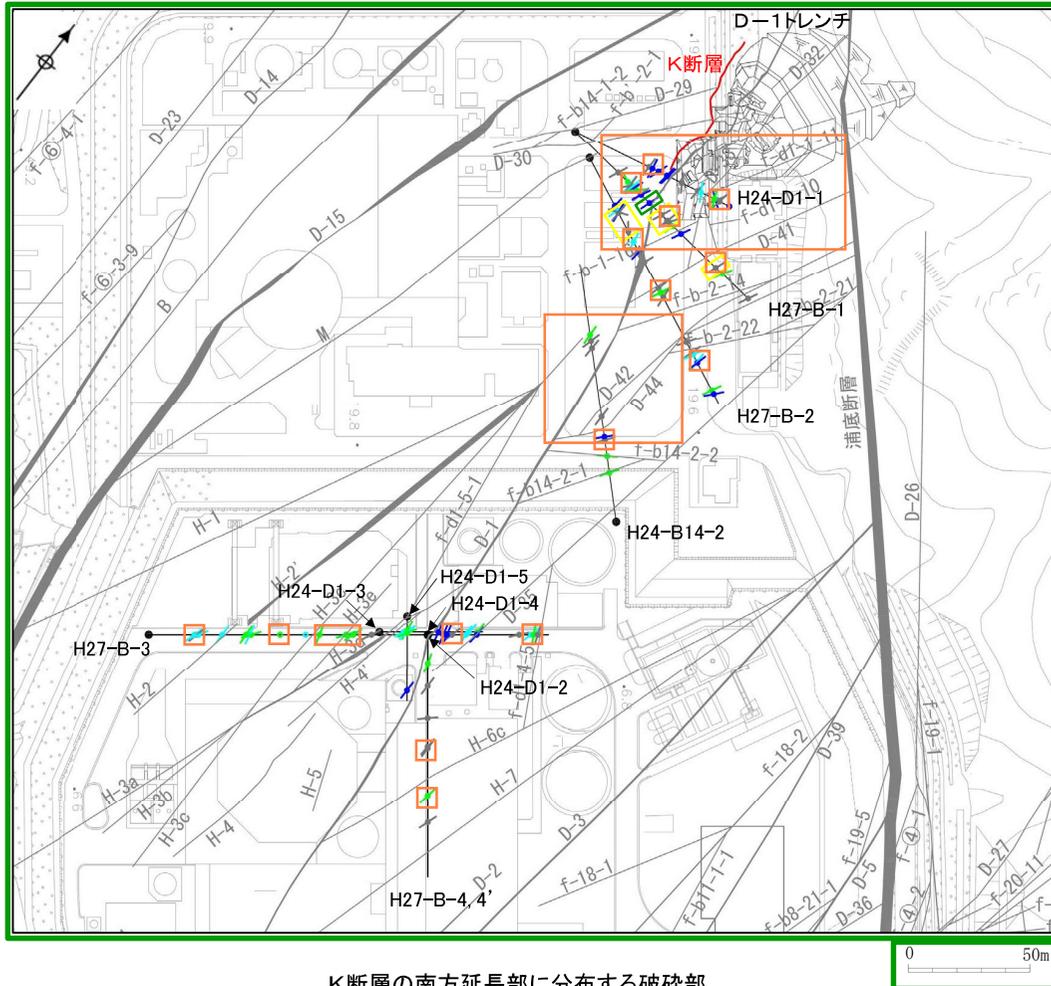


追加観察又は追加データを取得した破碎部

K断層の連続性評価について

## K断層の連続性評価結果

- K断層は、D-1トレンチの北西法面からふげん道路ピットの中央付近に至る区間において連続して認められる。
- K断層の変位・変形量は、南方(ふげん道路ピット)に向かって減少している。
- 従前の説明から拡充したデータ(全10孔のボーリングデータ)も含め連続性を検討した結果、K断層南方の破碎部には、K断層の性状(N-S走向、高角度西傾斜、断層ガウジを伴う逆断層センス卓越)と類似するものは無い。
- 以上のことから、複数の観点から総合的に判断した結果、K断層はK断層南方の破碎部とは連続しないと判断される。



K断層の南方延長部に分布する破碎部

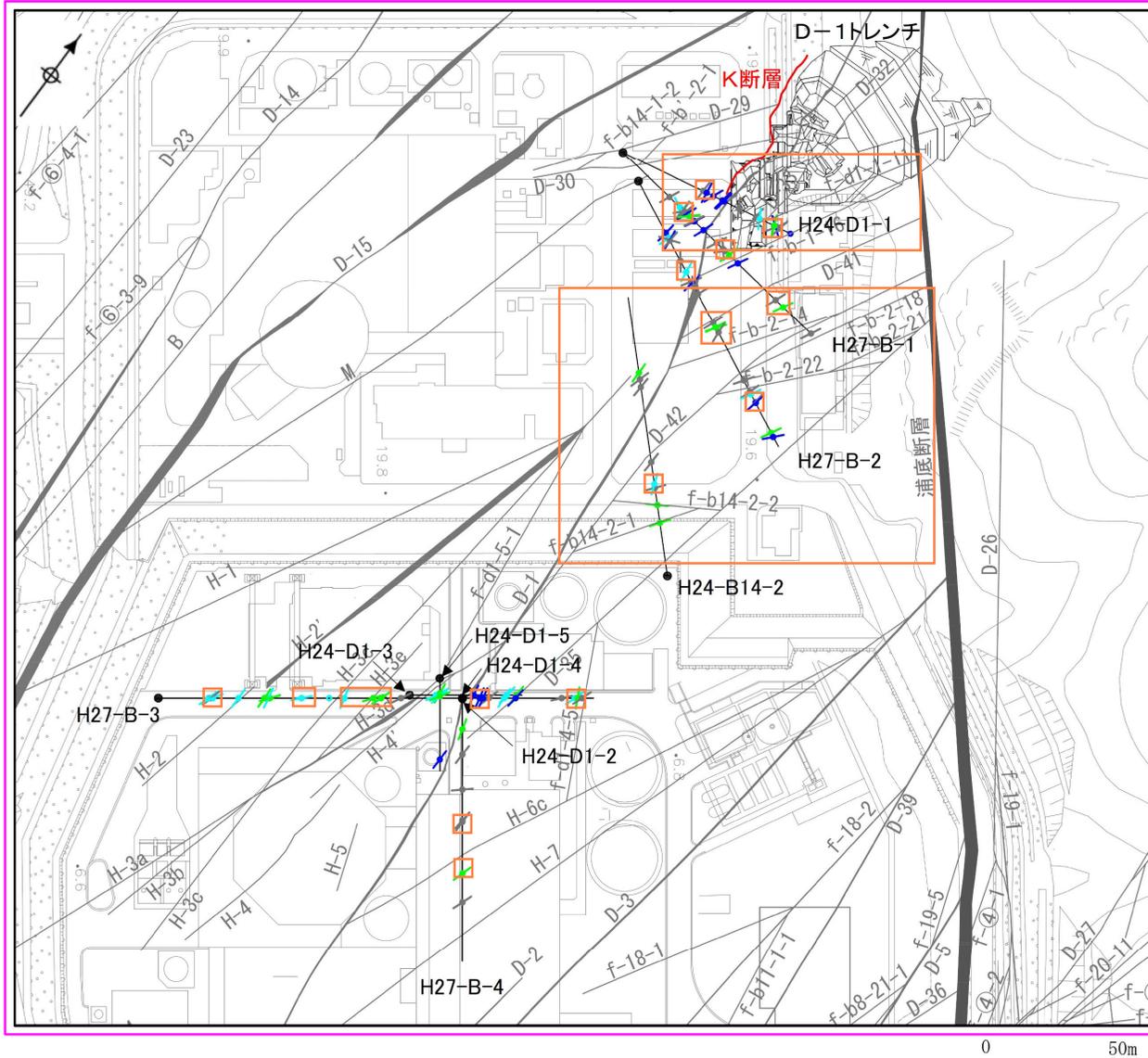
K断層はD-1トレンチより南方に連続せず、重要施設直下に連続しないことから4条対象破碎帯であると判断される。

凡例	
●	ボーリング孔
○	トレンチ
—	浦底断層 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
—	その他の破碎帯 (T.P. -15m)
↗	カタレーサイトからなる破碎部
↘	断層ガウジを伴う破碎部 (正断層センス卓越)
↖	断層ガウジを伴う破碎部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↙	断層ガウジを伴う破碎部 (横ずれセンス卓越)

48~51, 76, 157 : 走向・傾斜等の修正内容を反映。これに伴い、関連する周辺破砕帯の分布を修正（具体的には、後掲の拡大図に記載）。

修正後

K断層の連続性評価結果(2/2)



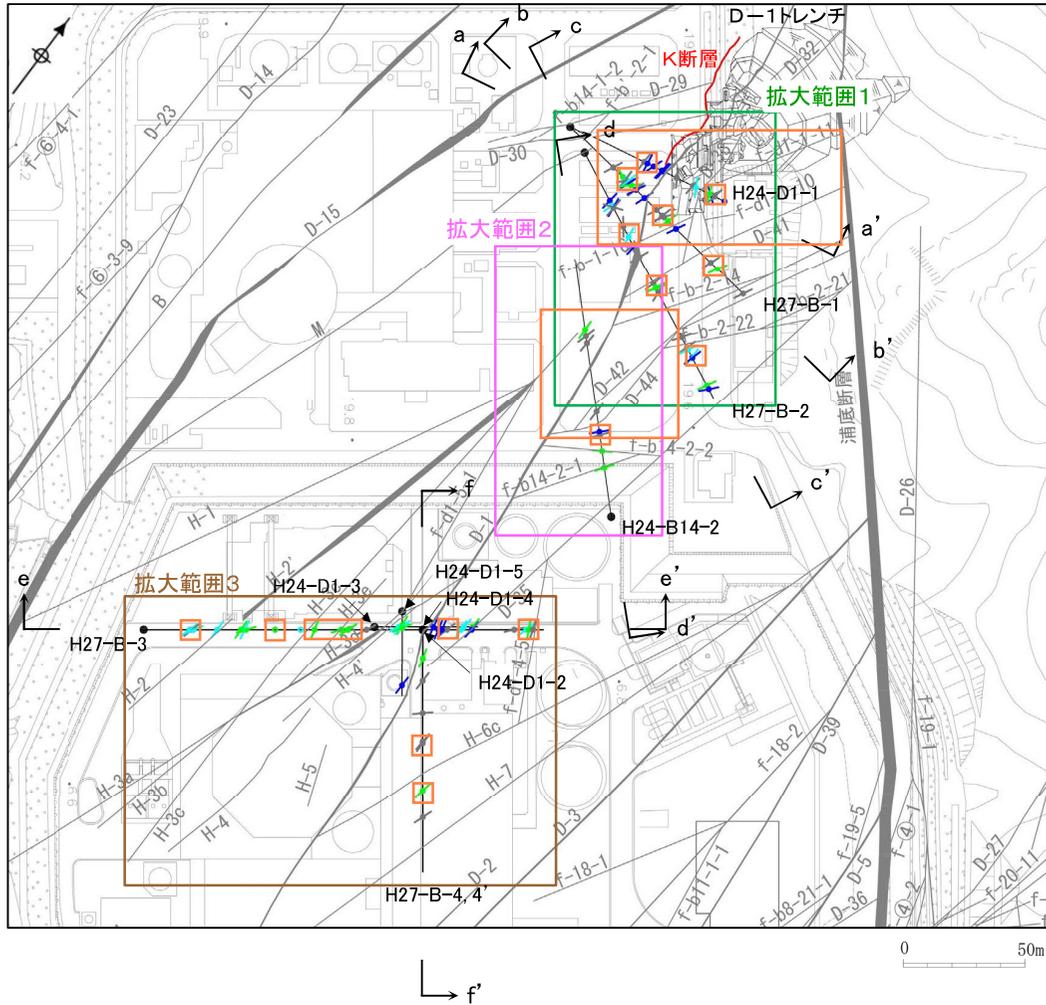
K断層の南方延長部に分布する破砕部

凡例	
●	ボーリング孔
○	トレンチ
—	浦底断層 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
—	その他の破砕帯 (T.P. -15m)
▲	カタクレーサイトからの破砕部
▲	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
▲	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
▲	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)

# 平面拡大範囲と断面位置

修正前

・ K断層南方のボーリングの平面拡大範囲及び断面位置を示す。



a a' : 断面位置

凡例	
●	ボーリング孔
○	トレンチ
—	浦底断層 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
—	その他の破砕帯 (T.P. -15m)
↗	カタレーサイトからなる破砕部
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
↗	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)

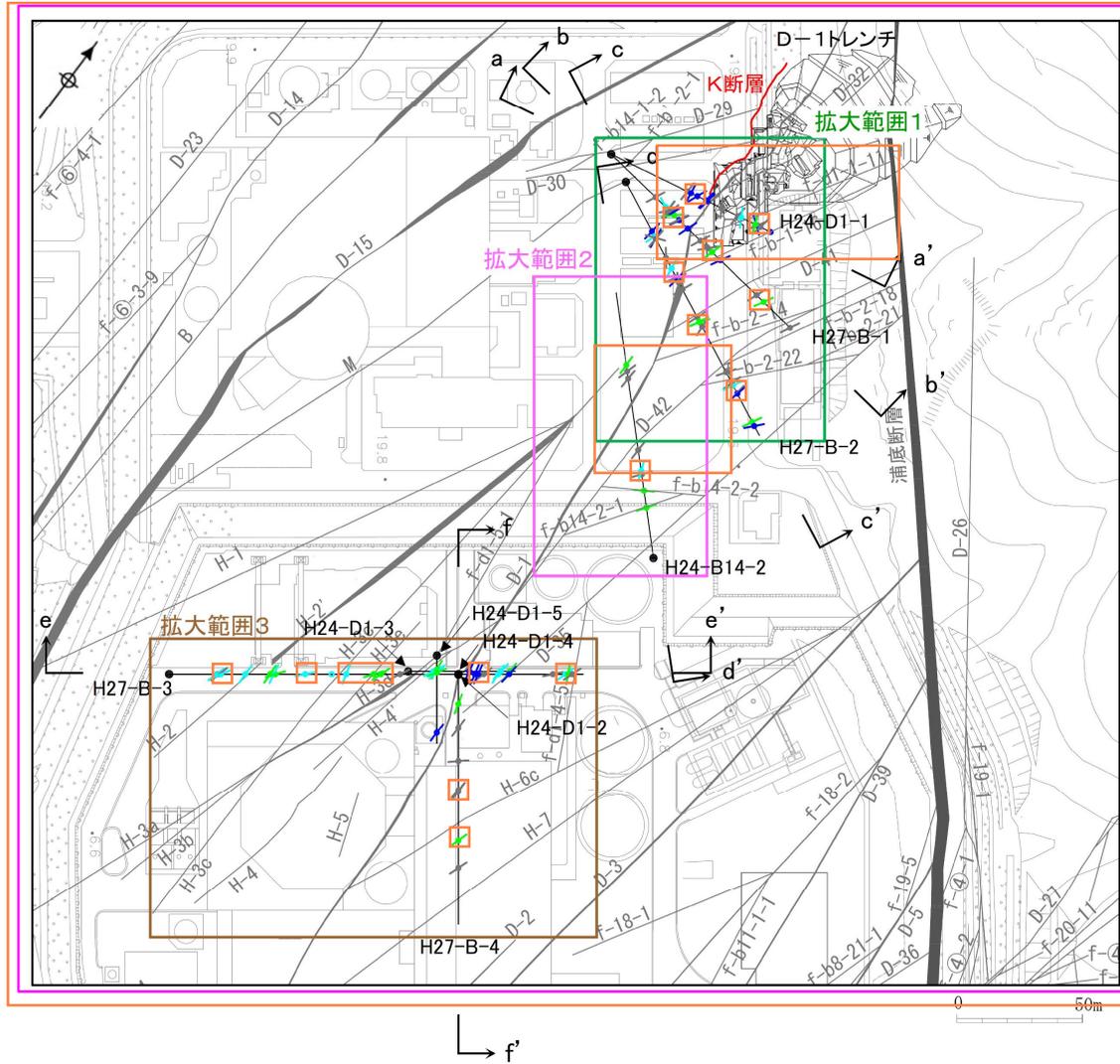
拡大範囲及び断面位置図

# K断層の連続性評価について 平面拡大範囲と断面位置

48~51, 76, 157 : 走向・傾斜等の修正内容を反映。  
これに伴い、関連する周辺破碎帯  
の分布を修正（具体的には、後掲  
の拡大図に記載）。

修正後

• K断層南方のボーリングの平面拡大範囲及び断面位置を示す。



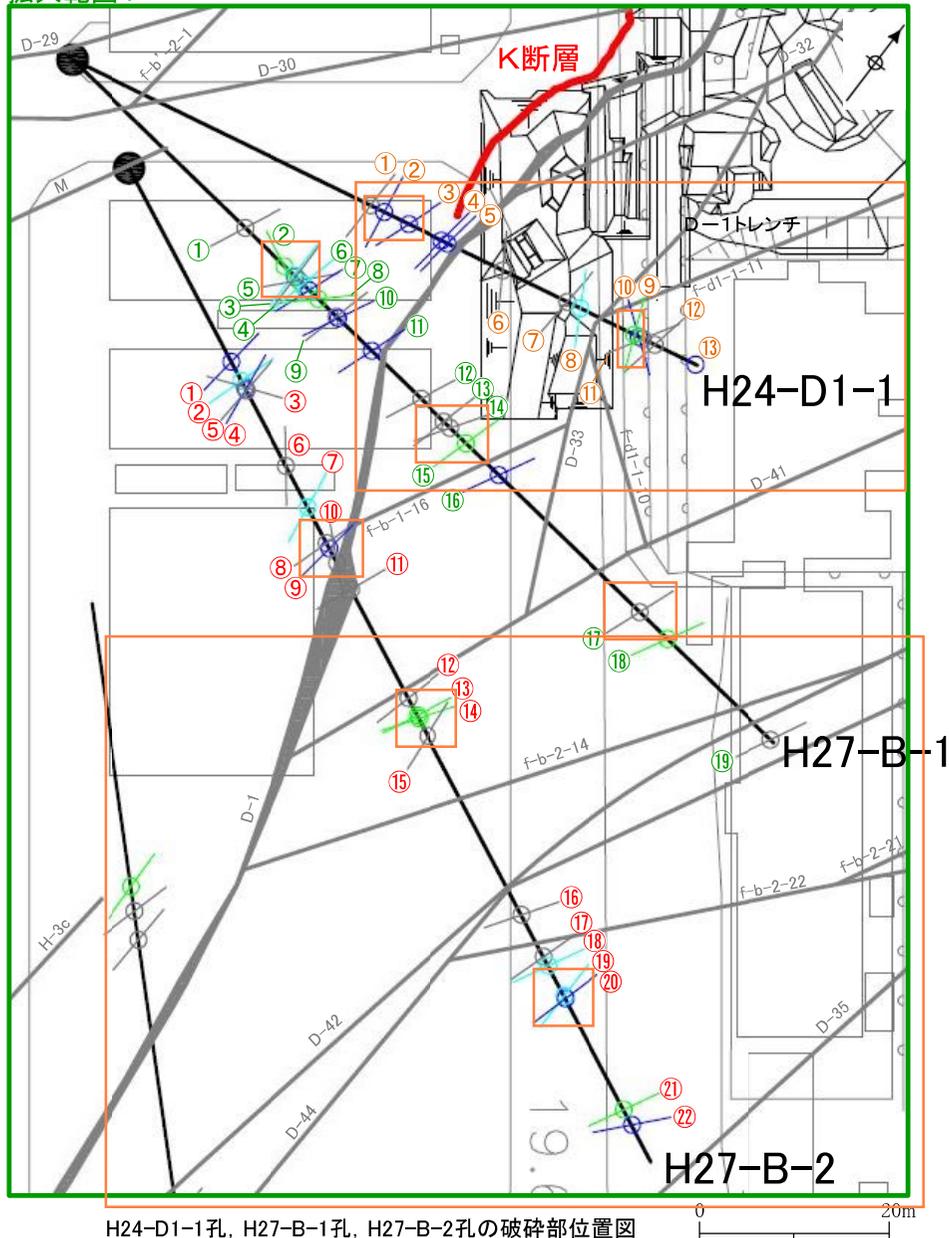
a a' : 断面位置

凡例	
●	ボーリング孔
○	トレンチ
—	浦底断層 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
—	その他の破碎帯 (T.P. -15m)
↗	カタクレサイトからなる破碎部
↘	断層ガウジを伴う破碎部 (正断層センス卓越)
↖	断層ガウジを伴う破碎部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↙	断層ガウジを伴う破碎部 (横ずれセンス卓越)

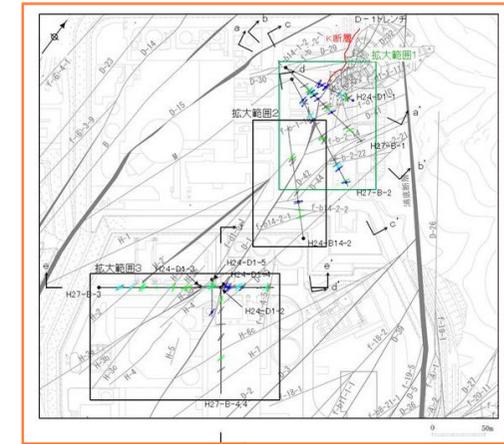
拡大範囲及び断面位置図

修正前

拡大範囲1



H24-D1-1孔, H27-B-1孔, H27-B-2孔の破砕部位置図



平面拡大範囲図

- ①: 破砕部番号 (H24-D1-1 孔)
- ①: 破砕部番号 (H27-B-1 孔)
- ①: 破砕部番号 (H27-B-2 孔)

凡 例	
●	ボーリング孔
—	破砕帯 (T.P. -15m)
—	K断層 (T.P. -15m)
↗	カタレーサイトからなる破砕部
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (正断層センス卓越)
↗	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれ成分を伴う正断層センス)
↘	断層ガウジを伴う破砕部 (横ずれセンス卓越)